



羣書一覽

五



此去のゆゑの草紙のしりし紙魚に肥えんとす〜とをけ
 きく坂以の憤恨起〜撰擇せしむるハ太守義泰
 のたの真字の序より貞享五年孟春葛山散人坂以得の真字の
 序等よる〜凡例より勅撰歌の歌ハこれのせず〜
 集ハ今古の拘り〜作者新舊撰擇ハす歌ハ就〜凡例入通
 計二百巻分〜八部とす假名歌ハ以て追加〜但一釋教を
 別部撰〜一帳〜當世の風詠宗匠家の点〜せ〜れ
 と入作者自誇の字とい〜も点なきものハこれのせず〜
 用書目五百十九部の中 撰集并推 勅類題外廿代集歌よ
 り 慈眼大師三十三回忌和歌に至るまで 百九部 百首類 拾遺
 七人百首より 石山法樂百首に至るまで 八八部 千首類 みの十三
 年着到千首より 兼宗千首のりまで 十二部 十首より 五十の
 至るの類 陽光院五十首より 大永二年序今急五十首に至るまで 十

四部 歌合類 内堂濯川歌合より 近江消息小歌合より〜
 百四十部 家集類 延喜の院所集より 度令(伊豆)外(伊予)
 小のりまで 百三部 法中集 守覚法親王所集より 辨阿法
 師所集より 至るまで 二十八部 女中集 式子内親王集より 或女所
 集より 今存す小春夏の部より 十三巻別々序凡例一卷を附
 凡例八則 追考二則

類題落穂集 写本 四巻
 勅撰類題の〜撰奉り〜る〜の今七百餘あり今
 此書ハあゆま元へき〜も撰考〜一巻〜の〜
 新類題落穂集 写本 四巻

新撰歌の〜撰奉り〜の〜と補り〜る〜
 勅撰歌の〜撰採〜る〜の〜の勅撰歌の〜ら

古今のわらわの世用のよし

残林拾葉集 写本 一卷

勅撰の歌は秋の瀬の歌の多し... 元禄十二年季秋並河良弼傳良父真字の跋... 後水尾帝嘗て當時の名卿を勅して... 歌林採各門の部... 類題和歌集... 賜一紙... 惟二三血臣の家... 舟木子... 君の家... 君固わ歌林好む... 歌林ものとお... 二冊... 十蓋... の歌と実...

明題和歌全集

十五卷

今川了俊の作なり古字が六巻... 採用ひる... 今刊中八十五巻... 雑の部乃下は短歌長歌旋頭歌混本歌折句... 淋借の諸作とのセリ

續五明題和歌集

写本 六卷

一かゝ撰者... 風雅集 新千載集 新拾遺集 新後拾遺集 新續古今集 以上五部の集の歌... 近體の... 題林抄

題林抄

写本

二十六卷

此林の類抄中らう一糸指圖の歌林抄ハ二巻より一巻のよ
 くしつ紙をとり又古き書目よのすゝゝら此法補の歌
 林一百二十巻なるものり歌合 今 百首集 といひ二十
 巻といつ今此歌林抄ハ才一巻より才四巻まで 春才五六七夏
 才八より才十二まで 秋才十三十四冬才十五より十八まで 恋才十
 九二十十一雜才二十二公事 才二十三 八名 才二十四 短歌 才二十五
 誦諧歌 才二十六 賀 かくはく部をわらう歌林のやんはつ
 題 林思心抄 八巻
 此書ハ大抵二八咽ひといひ歌も紙らつゝ書目よま仲
 の他な

拾題 和歌集

十二巻 惠藤一雄

二十一代集三玉集其餘家集歌合抄のしゝもは四季子息
 雜公のしゝを序でらつゝより貞享子五の進有知推の
 改らうは撰者惠藤一雄ハ河休菅雄の内くし自序らう

新明題和歌集

十巻

撰者つゝのしゝ下ゝのしゝ 近體の歌紙らつゝ集のす
 ゝゝゝら他者ハ 伯水尾院 伯西院 仙洞 道晃親王 智仁
 親王 竟然親王 通村 雅章 通茂 基福 雅喬 資慶
 基照 俊廣 意光 雅直 季信 光雄 其餘數十人といひ
 其時の名家し

新後明題和歌集

四巻

伯水堂梅風
 新明題の集を作者上らう 其餘ハ 伯陽成院 実業 重
 條等のゆ名をとり但しけちと一明のや二百のしゝ
 のせらう

新題林和歌集

十六巻

撰者つゝのしゝ下ゝ他者ハ 道晃親王 素戔 通村 伯
 房 氏孝 実業 伯西院 通躬 伯水尾院 伯元院 通村 光雄
 資慶 家照 通純 伯資 雅章 為偏 竟然親王 雅喬

為景 惟庸ユツ子 其餘數十人なり
新題林和歌集 十六卷

新題林以はの秋享保千首寛延千首等れ致しとす
とすらりてあつたすなり 奥書よるなり 作者の靈元院 実隆
為村 宗家 光榮 光綱 為久 光恭親王 職仁親王 公福 公野
通夏 重季 実積 光胤 家仁親王 重直 重立 為泰 先祖
資持等なり 雜の部の末は六首今の秋名所の秋等附
し 明和元年より本す

部類現業和歌集 十六卷 伯水堂梅風

此書ハ勅撰類題の體よりなり 新題林時代よりあはれりて
の集りもあつた 秋名ありては年月と所ふ所とせり 卷末は
梅風の跋あり

撰玉類題和歌集 十六卷 二本
此書ハ部類現業の誤といふ 關するは補ひらるりと刪り

ちしりて撰玉の字は存りてしりて 澄月の序よりなり
寛政年中 有賀長收カキイ校訂す

袖中證歌集 十六卷 二本

二十一代集六家集三玉集其餘家集歌合入れ 就て題ては一首の
澄秋シメキ等と袖珍シメキとす 元禄十七の二月上本す 撰者つらりて
らず 自序あり

百家類葉 二卷 富士谷成壽

此書新類歌時代の分りてしりて 諸家の集りてしりて
のせり 卷首は撰者の自序あり

古今和歌集類題 一卷 松井幸隆

古今集の歌よりしりてしりて 河のやもあつたなり 其
秋のちりて 万葉集 二十一代集 菅家万葉集 古今六帖
夫木集 六家集 山内物言 大和物言 保氏物言 其餘家集
歌合の歌よりしりてしりて

六家集類題

六卷

俊成の長秋詠藻 定家の拾遺愚草 同外 家隆の壬二集
仁宗の月清集 慈鎮和尚の拾玉集 西行の山家集 以上七
部の集の歌を合せて一部とす

三玉和歌集類題

七卷

仁相の柏玉集 西三の実隆の雪工集 合て一部とす
以上三部の集の歌を合せて一部とす 又は松井幸隆
これを合せて一部とす 又は玄子の踏り足とす

新三玉和歌集類題

二卷

仁水の尾院の西の集 中院の通の茂の公の老の槐の集 烏丸の光の榮の公の榮の集
以上三集の中の歌を合せて一部とす 其の書體三玉とす
又は新三玉集とす

三槐和歌集

一卷

新三玉集の例に準じて 中院の通の村の公の日の通の成の公の

集の類を合せて一部とす 慈延の歌とす

千首類題

写本

二卷

尾崎雅士嘉

為家の千首 正徹の千首 仁水の尾院の千首 大文の千首 慶長の千首
元禄の千首 貞享の千首 享保の千首 寛延の千首 享和の歌を合せて一部とす
又は千首の類を合せて一部とす 又は下卷ハ混雜の歌とす

續撰吟和歌集類題

六卷

一本

同上

原中撰の吟和歌集類題 六卷一本 同上
又は續撰吟和歌集類題 六卷一本 同上
又は續撰吟和歌集類題 六卷一本 同上

新續撰吟和歌集類題

写本

二卷

同上

文明の永正大永永正頃の諸家の歌を合せて一部とす
又は續撰吟和歌集類題 六卷一本 同上

類題證歌集

写本

八卷

同上

勅撰集私撰集諸家集歌合物語記録等より禁裏仙洞序
今後彼諸家書はホリて多くて數百部の書りて博く証
の故採りて中を採りて一首採りて一首採りて一首採りて
其歌の多し目録にみ字の多し其の多し五首といふも
なりしはこれのせりし假名遣句歌ありしは
み歌也名歌も亦多し其の多し思眼の多し
これなりしは多し其の多し二萬五千餘ありしは
りけり當時よりして一歌一その多し其の多し
老ゆよせよきやれども其歌のおはよ同士の多し
も勅撰歌はむは倍すれども考索は依りて多し
よのなり

草菴和歌集類題

六卷 一本

禎阿はの草菴集漢名房集の字假令せりれ歌りて一巻末
句歌りて大計入る終りたりその八景和歌其外外後古今入
りて家集の外にや歌のせり袖珍なりす元禄八年の秋
又言子のよみ歌りてすれり人の歌りては九月とす
草菴集類題拾遺 一卷

ま房集よりなりて百首高野日記の四十八首國々十樂房
記ホハありて巻末より二條は海光園抄の觀應と子のり
そよ歌りて其の好の多し其の附刻す

李花和歌集類題 写本 二卷
李花集ハ南朝の宗良親王の家集なり今集外の歌あり
りて集りてこれなりしは南朝五百番歌合附すは古今の
判者宗良親王よりしてこれなりしは判の歌ありしは
なりしは實のや尾崎抄ありしは附ありしは

芳雲和歌集類題 六卷 一本

文字此二少一首一萬葉集第十一卷十二卷の例多し西峯先生やいふは和漢朗詠集ハ四條大御言公任つる作なり和漢才子の詩句採以て採摘上下下す和歌ハ何人書くもその法おろし十洲おろし今持下る西書和歌のしりたけりすれより西崎の是くすきくもいふも今世もその法おろし下りて和歌のしりたけりすれより西崎の是くすきくもいふも今世もその法おろし下りて残すの○雅嘉海下る西崎の是くすきくもいふも今世もその法おろし下りてはあれがら信しきくもいふも今世もその法おろし下りてて和歌のしりたけりすれより西崎の是くすきくもいふも今世もその法おろし下りて長手點の朗詠採は唐人育王山の長老以下これとて感歎すくもいふも今世もその法おろし下りて殊に以て懐員す感懐よたす遂に乞取く育王山の宝藏に個む

和漢朗詠集註

十卷

注の註ハ永濟和歌の註ハ北村季吟りり家代註ハ和歌採會せ得すしせしめん所聴くいさくは書採又今覚明の法りりしを乃おのて偶よせよとこなりしものくもいふも今世もその法おろし下りてはあれがら信しきくもいふも今世もその法おろし下りて和漢採以てこれ採解しり永濟何んりりしりり信阿註の奥古採奉く云應保元年辛巳十月相扶風府終抄出之四辛永濟註奥書云云文十七年戌申三月十日下子之不審雖多加本令書寫字年見人遺為再治而已○寛文十年季吟漢字の序は四十一の上木す

新撰朗詠集

二卷

藤原基俊

公任の朗詠集よなしくはひしひは和歌と採つ○採すはなせは朗詠歌と採し和歌採採すもの多し公任の朗詠ハ新採朗詠と採しはる中ハ採

和歌

百寮和歌 写本

百

寮和歌

写本

一卷

高大夫實徳

按政園白太政大臣左右大臣大中御言等作後内舎人博士
大中少将按察使太宰帥六位等百寮の官名松尾
一してあり百廿餘首の歌なり此作者高大夫實徳何人なり

易

易然集 写本

一卷

寛文十二年壬子冬竟寧らるる集よのすゝゝの易然の歌なり

文明の竹林東洋屏風の画の如し其歌乃れ孔子蘆山瀑布

楊貴妃 赤登 陶淵明 黄河 老子 楓橋 唐玄奘 涪濱 茅

々々作者ハ 水尾院 西院 丘基基 照光院道尾院

と 飛鳥井雅章 日野弘資 烏丸光雄 中院通成 白川

雅春尚王等 詩の如し 菅家 芳野山 聖徳太子 天橋之

弘法大師 須磨浦 道風 神泉苑 暗明 武藏野ホ

五山乃僧の作せしるは他しめれ易然の歌号ハ 水尾
院の歌号ナリ 幸山寺同く易然の歌号ハ 水尾院
寺同く易然の歌号ナリ 易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ
子易地則皆然の語ナリ 易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ
易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ 易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ
易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ 易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ

文

明易然集 写本

一卷

易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ 易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ
易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ 易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ
易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ 易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ
易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ 易然の字ハ孟子離婁篇の下ニ

續撰吟抄 写本

續撰吟抄

六卷 三本

群書一覽

和書部五

十二

此書ハすゞノ類題ノ部ニ入リテハ元小正の比のオチニ
其代のくハ後教百首寺院のせりト云々ト年月題者等
知れしハ百首の上者の中一々ト云々ト刊本のれ以
ノハ年月が有同トハ所存けをハ字が卷末ニ至ル定ム
中北畠親政の奥書ハ所記ハハ院通村公の男ガリ
一人三臣和歌 写本 二卷

卷首より飛え子三月廿四日勅記初度の時月次の歌紙のせり
進一ノ次芽一ノ卷末水正五子十二月百首の終り
叶書情一人ノ和歌一ノ松ナハハ院通村公の男ガリ
西三条
實隆公ハ所記ハハ院通村公の男ガリハ百首ガリ
中より松ナハハ院通村公の男ガリハ百首ガリハ
臣之誠進等抄出之昔田時宗匠不ル過ル于此ニ筆與雅俊卿
古不足歎世之所推難比于此同者乎依畧之畢○此書
ハハ院通村公の男ガリハ百首ガリハ

徳つ府より井推修ハハ院通村公の男ガリハ
宝永一人三臣和歌 写本 一卷

宝永二年九月仙洞寺に到和歌作者十四人の中 霊元院 中院通茂
ハ清水谷實業ハ武者小路実隆ハの歌ト云々ト百首松ナハハ院通村公の男ガリハ

新一人三臣和歌 写本 一卷

後水尾院 西三条実隆公 鳥丸資慶ハ 中院通村卿の御手ト
ありと云々ト云々ト

御點取和歌 写本 一卷

萬治年中より寛文中よりテテハ院通村公ハハ院通村卿の御手ト
後水尾院ハの御手トハハ院通村公ハハ院通村卿の御手ト
添削のハハ院通村公ハハ院通村卿の御手ト

御點取和歌 写本 一卷

元々ハハ院通村公ハハ院通村卿の御手トハハ院通村公ハハ院通村卿の御手ト

新古今

十三

福の両よりいふは初らる點と朱墨以てこれ代り

天正五十首和歌 写本 一卷

天正五十親王御方より撰りて五十五首なり作者一字名竹と
たつやいふは誠仁親王の御方なり 聖護院通澄親王の御方中依通
持つた十人なりと点者之先院実村公に添削の事ありといふ

五葉集 写本 二十卷

或ハ月次集抄と稱す あらハ山階集と号す 作者は冷泉院
之三条院 白川院 堀河院 鳥羽院 といふに五葉集と号す
口書尾張抄も盛忠の撰といふ

花抄 写本 一卷

良守 良春 頼阿 頼宗 周嗣 五人の御方より撰りて
一名五人五百首と号すといふは一花抄と号すハ一花五葉集の

句の意解と云ふやと羣書類後にもこれ収めりて五玉
集と稱す

五玉集 写本 一卷

五玉集ハ弘長百首の一名なりといふ他者五人の御方より撰りて
名づけていふものなり 百首部類といふ弘長百首と云ふは
いふ字がよきといふれりといふものなり五玉集といふは

四玉和歌集 写本 一卷

口書ハは正吉言 け物総巴 け物昌也 沙弥明心と上四人の
百首なり五玉集の例なりといふに名づけていふものなり
一明心ハ水貞休の法号なり

新古今竟宴和歌 写本 一卷

元慶延喜大慶より日中紀の竟宴御方より撰りて日中紀中の人の名
に依りて撰りて和歌と歌せりといふに日本紀竟宴和歌ハ
國史の部に收む新古今集竟宴ハ彼日中紀の例に依りて撰りて

群書一覽 和書部五

十四

此集のなかのよるよるは意味の了らぬものもあれば、
収められたものも拾芥抄の新古今抄と引くものも元久二年四月彼行竟皇
まゝに付したるものも進せしめられぬ

厚顔抄

写本

三卷

沙門契沖

卷首より日本紀和歌畧註とありて、此書ハ契沖 西山公の命よ
りて日本紀の中ハ和歌童謡等長短百二十七首採りてこれ
て綴りたるに、古事記の歌百七首ハ中ハ五十一首ハ日本紀和歌畧註
これとのち、五十六首採りてこれハ契沖日本紀和歌畧註
上下古事記和歌畧註一卷勅し、之巻すす新し、厚顔
抄と名のけり、元禄四年八月漢文の自序より、
今井似因が萬葉緯とて明月記二十九建永二年九月廿日
昭付家長進日本紀歌註とて、望申法橋とて、不知其由日本紀
者我朝之國史尤可重若可其沙汰者大臣公卿官外記を可奉
行歟、非法師撰進之仁歟、廿三日頭昭昇綱所とて、今案下よ

惜哉頭昭の日本書紀の歌の註今世傳とて、
今世傳等ハ私記引くこれハ註す、
これハ懐賢の歌の註ハ又、
す、倍なり、
記の歌の註厚顔抄三巻ハ契沖の日本書紀なり、
は、
首連歌二首とて、

紀記歌集

二卷

真淵の人諸鳥これハ契沖の上巻ハ日本紀の歌下巻ハ古
記の、
これハ契沖の日本書紀の、
これハ契沖の、
これハ契沖の、
これハ契沖の、

新編 萬葉集

十五

の左は傍書すハ一説... 字者的好... 下巻...
 其の紀の終の日本紀... 天明八年秋... 諸...
 此の自序同年八月大江... 足直字子の跋... 是

日本紀歌解

二卷

宇治五十槻

日本紀の... 宇治五十槻... 諸...
 大... 今... 宗...

續日本後紀歌解

一卷

同上

續日本後紀... 宇治五十槻... 諸...
 幸直の序... 万葉集乃考... 乃曰永井...
 其の心人田内秀... 乃曰永井... 興福寺の...
 三月 天白王 仁明天皇 乃四十算を賀... 興福寺の

僧徒のたて... 長歌... 伊豫...
 の國人田内秀真... 今井似用... 人の...
 萬葉集... 乃曰永井... 興福寺の...
 日本紀の... 五首... 日... 乃曰永井...
 万葉集... 乃曰永井... 興福寺の...

竹取翁歌解

一卷

同上

萬葉集第十卷... 乃曰永井... 興福寺の...

けしめ... 書... 神主助備の跋... 寛政
 十一年四月攝経亮の序... 万葉集の中... 竹取の翁の...
 今... 奥... 真... の... の...
 人... か... せ... せ... せ... せ...
 ...

撰歌類

三十六人撰

一卷

一名三十六歌仙より四條の御言公任... 平親... 歌仙... 秀歌十首... 一首... 今... 人丸... 敦忠... 小大君... 敏行... 体宣... 兼盛... 貫之... 伊勢... 赤人... 遍...

皇朝御製

十一

昭 順 元輔 朝忠 高光 友則 小町 忠岑 賴
基 信明 元真 仲文 忠見 中務

後 刊部 範兼 公任 相模 泉 木部 十首 相模 伊勢 大浦 平 貞文 四首 法系 源 又 大江 子 里
り五のけいひのていあせやくせいのてい

在 原 元 方 日 輔 親 高 遠 馬 内 侍 友 系 義 孝 紫 式 部
道 綱 母 友 系 長 祐 定 礼 上 東 門 院 中 將 兼 賢 王 在
系 棟 梁 文 屋 康 秀 友 系 忠 房 菅 原 浦 昭 大 江 匡 衡 安 法
法 師 清 少 納 言

新三十六歌仙 一卷

撰者 一巻

撰者 一巻 一巻 一巻
は 多 の 沈 土 内 沈 順 怙 沈 太 上 天 皇 六 條 推 成 親 王
鎌 倉 宮 宗 尊 親 王 入 道 二 品 親 王 道 助 式 子 内 親 王 友 系 長 祐
政 良 任 光 明 峯 寺 入 道 物 政 西 園 寺 入 道 九 条 前 内 大
臣 基 家 公 衣 笠 前 内 大 臣 家 公 慈 鎮 和 尚 大 僧 心 心
大 僧 言 通 具 持 中 僧 言 定 家 八 條 院 俊 成 女 友 内 藤 壁
門 院 友 系 友 系 友 系 友 系 友 系 友 系 友 系 友 系
大 藏 友 家 友 系 右 大 藏 友 家 友 系 友 系 友 系 友 系 友 系 友 系

新三十六歌仙 一巻

十一

才四卷 新女歌仙 才五卷 後女歌仙 才六卷 職人歌仙
才七卷 釋教歌仙

集外歌仙

一卷
平常親 東野州 津守國冬
宗長 宗碩 月村舟 永閑 龍登
道灌 大田 長慶 之母 宗養
昌俊 佐川 尚證 惣社 長甫 東山 宗祇 種玉房 心敬 比叡 住持
其基 佐 梶井 肖柏 牡丹花 親當 蟻川 冬康 之母 紹巴 信江 有 宗牧
玄 肖 細川 心前 元就 毛利 氏康 北条 晴信 吉田 氏政 北条
氏真 今川 昌叱 里村 政一 小坂 貞徳 道遊 於
者也 寬文五年二月下旬交野内匠 院所 院所 院所
野蓮 長被 製 畫 圖 子 各 合 符 年 又
職人歌仙 一卷 烏丸光廣 卿

醫 佛 經 綴 治 番 匠 刀 磨
佛 巫 女 盲 目 須 髮 壁 塗 付 掛 蓮 打
塗 杉 枝 抄 什 磨 珠 ね 川 桂 女 大 京 人 舟 人
海 士 人 具 足 屋 糸 心 皮 心 徳 ね 心 弓 抄 鞆 心
華 結 扇 屋 彫 抄 鏡 心 笠 心 桶 法 抄 打
舟 人 已 上 哥 一 首 万 二 首

三十六貝歌仙

一卷
志 貝 小 貝 梅 花 貝 規 貝 溝 貝 馬 刀 貝 花
貝 瞿 麥 貝 け 了 貝 小 貝 船 貝 筵 貝 裏 赤 貝
傍 貝 今 今 小 貝 千 種 貝 海 松 貝 松 貝 鳥 貝 雀 貝
都 貝 宝 螺 貝 了 了 貝 浪 前 拍 貝 小 貝 塩 貝
の 貝 向 世 貝 了 貝 袖 貝 以上 一 首 一 首
歌 仙 金 玉 抄 二 卷

群書類

古三十六歌仙の傳り卷首に大意記し... 五種のうららき...
かゝる世傳ありき... 五月洛陽...
自刊ゆす

歌仙大和抄

二卷

歌仙拾穂抄

三卷

歌仙二葉抄

三卷

岨山春幸

三十六人の傳り歌仙... 宗直... 二十六人歌仙贊歌... 写本... 一卷... 沙門笑冲

三十六歌仙の人々... 就重の... 長... 然... 其... 其...
... 其... 其... 其... 其... 其...
... 其... 其... 其... 其... 其...

九和歌

一卷

大納言公任

古人の歌... 上上品... 上中品... 上下品... 中上品... 中下品... 下上品... 下中品... 下下品...
... 〇愚同...
... 〇...
... 〇...
... 〇...

自讃歌

一卷

太上天皇... 式子内親王... 大文信正慈系

群書類 和書部五

二十二

和歌

三十三

後大御言通具 三十五 俊成 後成女 入内つ 有系マ 定家

家隆 通光 具親 雅任 寂蓮 秀休 西村
けく自讃の十首と云ふ。光廣の耳底記

くれえしひささき。外題はたごゆつ。或の自讃

哥は人の不ぬ。撰の書。みえ内府の歌

自讃と云ふ。明月記。或の自讃

依作撰自讃歌十首。或の自讃

自讃歌註 一卷
宗祇はの位なり 妻書と文明十六年宗祇在判と

自讃歌飛鳥井抄 写本 一卷
宗祇の位はなり 妻書と文明十六年宗祇在判と

自讃歌抄 写本 一卷
兼野が平常縁の位なり 奥書あり

自讃歌管注 写本 一卷
かたの自存と云自讃の位なり 奥書あり

自讃歌 写本 一卷
かたの自存と云自讃の位なり 奥書あり

自讃歌 写本 一卷
かたの自存と云自讃の位なり 奥書あり

自讃歌 写本 一卷
かたの自存と云自讃の位なり 奥書あり

自讃歌 写本 一卷
かたの自存と云自讃の位なり 奥書あり

和書部五

三十三

歌學類

和歌四式

写本

四卷

歌經標式

一名增成式

參後有京儀成勅成

抄下

喜撰作式

喜撰は勅成河を〜〜〜撰す

孫姬式

序あり

石見女式

是女部はけりてあり

此四式の名目もいさの抄抄よき〜〜〜せられたる今世傳うあつた
式依ちて〜〜〜いけり〜〜〜中古より法を〜〜〜り母へあり
いのかれをよの〜〜〜の〜〜〜するけれと〜〜〜る〜〜〜
いのか〜〜〜○梅が〜〜〜は撰成の〜〜〜八條成つの子裁集の序は宇治
山の僧を撰と〜〜〜り〜〜〜んす〜〜〜る〜〜〜の〜〜〜けれま〜〜〜り
大和〜〜〜の女と〜〜〜り〜〜〜る〜〜〜る〜〜〜り

八雲御抄

六卷七本

順徳院御撰

群書一覽

和書部五

三二

歌の法式歌学最要の事ども河をせれまう巻の序の

才一 正義部 六義 序代 短歌 及歌 旋代 混本

才二 折句 皆冠 抄名 贈答 連歌 八病 歌合 今

作者 清書 核集 天象 時節 地儀 居處 名

同下 木鳥 獸虫 真人倫 人子 衣食 雜心 名

才四 言語部 世俗言 由緒言 料言

才五 名所部 山嶺 社林 河社 社寺

才六 用意部 卷のいすづくやむべきうらひの事ども

奥儀抄 三卷 藤原清輔

刊中りひハ巻よふり和歌此式万系古今集等和歌の奥儀
 と釋す歌通至要の事ども五家髓の一なり法補のいむ
 集の撰者くく法補の子法補の兄なり書は法補の
 前和歌得業生柿本躬貫撰と作名河志せり五家の
 髓にハハヤの御抄は新撰髓に公任終固歌枕佐於そ名抄
 仲実綺語抄清浦真儀抄とありて又四家の髓に佐於そ
 名抄は傳秘抄と号す綺語抄真儀抄童蒙抄とありて
 巻之上 六義 六體 三種作 八不 冬句 連句 隠題
 詠諧 四病 七病 八病 抄名 古歌 名不の
 巻之中 拾遺歌 後拾遺歌 後撰歌 万葉歌 今の歌
 巻之下 古今和歌の序 奥書よふ和歌の法補の自序
 和歌字比校とありて五巻の上とす
 代名草子 四巻 同上
 真字よ假字とありて和歌の作法とありてあり

故実の帳の字様式をわすれぬのさうがしんこもねん

和歌初学抄

四巻 同上

花柳まんなの春のおもひらう おぼんぞもし日柳海せん
月けあふえんゆこう柳おほひつげくおしんりかて古き
向のやうしん柳さうしひてさひやうつうさしん

巻一 古歌詞 万葉集の詞を二巻より廿二巻まで

長短二百五十より松屋しひのせりうはつよ古今集の詞の餘
な柳於遠ね柳遠いせむゆたわ柳のむけしづか柳あけり

巻之二 由緒詞 秀句 天のそと八月日星や天原らやの川
のそとせてハ帆槽うひしれハくさすうちのそとハ
縁波もらやこあけり 似詞 ちハおさるハ似ちち
むりやとハのれらまあけり 必次詞 まりこハのれし

巻之三 喻来物 くるくるくるくるのそとねて ちの毛衣のそと
るめ竹すしうし柳うらあけり 物名 月うらあけり

巻之四 所名 山園 山園 井 雑木 万葉集あお名
後名あ名 あらみりのりしれ 雪んりのらあがら
らけあねお

巻之五 両所詠歌 一首 両所詠歌 一巻 二巻 四巻
清輔雜談集 二巻 四巻

袖中抄

袖中抄

二十卷 釋顯昭

太秦の躰昭の他し万葉集古今集より柳川のそと時代
まてその向の細りもれを柳のそと柳川のそと

新撰

めて金葉千載^{キエウザイ}の如く^{シテ}いつつあるはよつてのつづき
 此れ^ハあつて^ハこそ^ハ... ○^ハ書^ノ他者^ノ久^シ
 慈悲^ノ和^ガ尚^ク... 和^ガ集^ノ中^ノ考^ハ...
 の^ハ... ^ハ... ^ハ...

新撰

今^ハ病^ノの^ハ... 一^ト卷^ト... 大^ノ納^言言^ハ...

古語深秘抄

歌^学ノ書^ハ十^九種^ヲ... 刊^行す^ハ... 一^ノ雄^ノ序^ノ...
 何^ノ人^ハ... 何^ノ物^ハ... 何^ノ事^ハ...

い^ハち^ハ... 秘^シ... 秘^シ... 秘^シ...
 歌^ハ... 秘^シ... 秘^シ...
 古^ハ... 古^ハ... 古^ハ...

和^ガ歌^ハ... 和^ガ歌^ハ... 和^ガ歌^ハ...
 和^ガ歌^ハ... 和^ガ歌^ハ... 和^ガ歌^ハ...
 和^ガ歌^ハ... 和^ガ歌^ハ... 和^ガ歌^ハ...

詳書一覽 和書部五

三十

和歌

三十一

後鳥羽院御口傳 一卷

和歌の至要八十七ヶ条並びに注をなすにほえき十二月教念止
所持中震子の中を記して字すすの奥書なり又書に
の奥書なり

和歌式 一卷 定家

和歌の式を記すに信俊に御補基俊俊成
の式を記すに弘長三年の奥書なり兼
入の奥書の奥書なり

和歌體抄 一卷 同上

千載抄抄撰傍注の中此風体の言に十ヶ条あり
也中傍注の中自筆の中ありて書すすの奥書なり

和歌庭訓 一卷 同上

一名毎月抄といふ巻首は毎月の所を言ふに
いひぬるに定家の衣笠内大士の書す

建武四丁の奥書 二卷 又文明十年三月源通基の奥書あり
和歌口傳 一卷 家隆

字は名目譬喩等揚のゆかりに建武の
近來風體抄 一卷 良基公

皇玉集 一卷 鴨長明

皇玉集の奥書に記すに
御河上 一卷 丹次

とすにめいふと十一字の
たすはつとすに記すに
たすはつとすに記すに
たすはつとすに記すに
たすはつとすに記すに
八雲口傳 一卷 為家

和歌部五

三十一

一名和歌一冊と号す歌謡のそけい九百十作のり制のりめり
古くは和歌のりかたは和歌のりせり和歌のりは和歌のりを何れに
のさかすりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり

阿佛

耕雲口傳 一卷

予が海すりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
やりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
海すりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
魏公上人所述而和歌之道深切著明者也予耕雲の南の
行大徳言右大徳右系長記つてりてりてりてりてりてり

桂明抄 一卷

古元孝

此書ハ三日月夕月夜上弦月と日月不知夜日三日月は
月即待日廿日月下弦月と明月おのりてりてりてりてり

桂明抄と名づく又字五子の奥きいり此小冊室町友の作依
てりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり

八雲一言記 一卷

いりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
の歌謡はすりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
一冊ハ二条依宸翰とてりてりてりてりてりてりてり

和歌二言集 一卷

巻首は僅く和字ありてりてりてりてりてりてりてり
いりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
名和歌のりすりてりてりてりてりてりてりてりてり
和歌用意条 一卷

これと化者ありてりてりてりてりてりてりてりてり
いりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
已上十九種元禄十五年刊行す

和歌六部抄

六卷

群書一覽 和書部五

和歌式 定家卿 正風体抄 日上 和歌庭訓 日上
八雲口傳 為家卿 和歌口傳 家隆 丘来風体 良基云

詠歌大概

一卷 定家卿

歌御流下らんねれおほひのほろりくはるぬゆ才七の侍子
梶井いふ快活花まよせせしとちかきり 頓首の扱
るしり 奥は秀歌作大畧百餘首とのすとのく 他者採流

詠歌大概抄

二卷 二本 細川幽齋

玄音法下れはし奥書うら久我垂相おほ海すこのり作
らま 然ちいりなるこもしり みたかひやせよあのかい
くもりしはそ今もあきくく老院内府支子所講教の時
のほまおれけるこまよりとて物ろいおくくこれちこり
め二冊のあけぬえふ十と子丹ら隠士玄音云

未来記 雨中吟 一卷 定家卿

定家口の四季恋とあり十首こころめは前和歌得業生柿本貫
躬より他名とありし書以未来記と称やらんを伝生
りもいふ歌を流すまよきすしは長らく優く正しく
又やうきこころおほいぬがてたひりすし新らへたく
し流しおとんとすし却く邪説はとむすははなぬいと
つははかぬ名おまよすし又近代の秀をぬす
てんねり河をいふめくとのり家庭訓と優し先
達のをいふるむい積りるまよせくめはりく物
りるあまの所考はあまの流しをれりるまよし
るは業士の他名もすしは補の初字おしるる
の他名おぬすしすいしあかすし○雨中吟十七首
家つのお流しと奥は口伝抄とありは好くもんす
たぶとせ至るるしとてあまのまよしりしは

宗祇遺齋ホの古抄ノ般齋の増はり身出の説は多く奉り
和歌七部抄 八卷

詠歌大概一卷 秀歌大略二卷 百人一首二卷 赤来記雨中吟二卷

三休和歌一卷 結題百首一卷 定家卿の巻行りし 承應元年十二月刻

兼元抄 写本 一卷 定家卿

卷首より一人一人のやうに記し置きのついでに
おろかなんよのさしひききたりしをさつげりし
こふれいもなかりたりしをさつげりし
かよすのしかりきりしをさつげりし
信成まの風作のしをさつげりし
いハハ首のめきりしをさつげりし
奥のしを承えし此自征夷將軍依披尋人
所注送之秘本也
弘長二年九月老後更書写之と代撰者兼門融覺判
家卿の法名也

定家物語 写本 一卷

初子積取のしを承え万葉古今管家万葉ホのしを
以系極中細言入るなりしを承え子承りしを承え
三五記 二卷

初子積取のしを承え万葉古今管家万葉ホのしを

上巻 教の仲のし 十神入るれはゆりし 三十八作し

下巻 教の仲のし 十神入るれはゆりし 三十八作し

下巻 教の仲のし 十神入るれはゆりし 三十八作し

日記のし 十遠老有るなりしを承え

定家卿の他し 十遠老有るなりしを承え

いふし 十遠老有るなりしを承え

思秘書 二卷

思秘書 二卷

いしかりりしと備のめらりあつと

古来風體抄

五卷

俊成卿

古書の中作ハ式子内紙... 俊成卿の書... 古来風體抄... 俊成卿... 古書の中作ハ式子内紙... 俊成卿の書... 古来風體抄... 俊成卿... 古書の中作ハ式子内紙... 俊成卿の書... 古来風體抄... 俊成卿...

うれつぎは四季のりやうり... 松田丹州の書... 四季のりやうり... 松田丹州の書... 四季のりやうり... 松田丹州の書...

近來風體

一卷

二条良基公

松田丹州の書... 近來風體... 松田丹州の書... 近來風體... 松田丹州の書... 近來風體...

和歌一覽

近きものなりけり相違のりやもむらわのりやも病
めしめし何割の白月少づりしやもむらわのりやも病
奥のりやも此一卷道し教等美他しり書道松田丹波者
やまゝ和慶元年三月十二日信普光園持政准三后守判
和歌魚底抄 十卷 藤原基俊

一名一子傳より四季鳥雜の抄なりしやもむらわのりやも病
とて所よりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病
奥書并り起法ふりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病

魚名抄

二卷 鴨長明

俊和基俊よりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病
とて所よりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病

竹園抄

一卷

おれりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病
らりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病

蒙求和歌写本

十四卷 二本 源光行

李翰が蒙求けりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病
てこれなりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病
しやもむらわのりやも病とて所よりしやも病
して丁固生松子日のお松ありしやもむらわのりやも病
もそし元久甲子之歲初秋壬申之日朝議大夫源光行しやも病
よりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病

井蛙抄

六卷 頼阿法師

頼阿のけりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病
の國にけりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病
家代摸範しやもむらわのりやも病とて所よりしやも病
愚向しやもむらわのりやも病とて所よりしやも病
条家けりしやもむらわのりやも病とて所よりしやも病

群書一覽 和書部五

三十一

未ださびたし〜と代末よあつたをわすれし言葉い
ぶまもつたやのまき材かろ志ふも末の代は定家隆
いささけしひのたらしまらそ〜し〜はこれかきもちり
〜う〜し〜てちのま〜う月れあつた妙なり〜と
か〜う〜し〜た〜て〜し〜さ〜さ〜し〜た〜く〜る
のらぬつけ〜えん〜えあろ〜ろ〜と〜ま〜せ〜く〜れ〜ぬ
つめ〜く〜尋〜ね〜材〜集〜く〜り〜か〜く〜〜えん〜も〜ろ〜ろ〜○山書詠歌
のら〜れ〜ろ〜ろ〜し〜か〜様〜〜と〜〜お〜ろ〜ろ〜ゆ〜あ〜ら〜も〜歴
とゆ〜は〜し〜し〜

上巻 百二十七条 才詠歌諸作 才二取中歌中後作 才三
虚字一言葉 才四実字一言葉
下巻 五十八条 才五有由諸歌 才六有由一系後閑作也
ハ中自筆也 才七子 才八唐寺四年一割
續歌林良材集 二卷 下河邊長流

永亨代〜う〜一系後閑 尋ね良材集松之〜り〜く由緒〜り〜し〜も
河松松〜た〜し〜し〜〜の〜万葉集日中紀あ〜り〜し〜も
坊向の〜一〜名〜れ〜る〜秘〜家〜お〜と〜標〜記〜〜の〜と〜ら〜る〜え〜ん
刊のす

言塵集 七卷 今川了俊

- 卷之一 序卷 立春 門松 若菜 若水 氷様 腹赤 國柶
- 子日 卯杖 所萩 白馬 市奈令 賭射 赤の徳令とひけ 好す
- 卷之二 句の佳 万葉集の〜り〜れ〜は〜ひ〜の〜り〜 あ〜る〜の〜良
- 卷之三 句乃佳 卷之四 句の佳 句の佳
- 卷之五 句の佳 句の佳 句の佳
- 卷之六 句の佳 句の佳 句の佳
- 卷之七 句の佳 句の佳 句の佳

万葉集もなれし中よ一ふあ... 河原字
わいらはの才方あつめく板... 右座右
集西冊昌琢老所取被抄書也和歌之秘註此道之至宝
不河出窓外者也今以兩本合校合年 花雲軒
耳底記 一卷

細川玄直は言はれ... 板鳥丸を産つて...
なり○資... 耳底記を宝の書なり...
の時の... 板...
の時の... 板...
... 板...

春雨抄

十卷二十本 龜重常

わが連歌ホの河原は... てもく...
... 連歌者流の...
... 龜重常の他... 林道春

の真名序

和歌題林抄

二卷

四季恋雜の題の... 書林因...
... 種心秘要...
... 春夏秋冬の歌...
... 兼良... 他...

増補和歌題林抄

十一卷

... 書ハ二卷の... 補...
... 色... 坊... 村...

新和歌類句集

古今類句

掌中題林抄

一卷

尾崎雅嘉

此書ハ古今集ノ後ノ新和歌類句集ノ掌中題林抄ノ一巻ニシテ尾崎雅嘉ノ撰ナリ...

種心秘要抄

八卷

此書ハ後水尾院ノ御筆ニシテ種心ノ撰ナリ...

一字御抄

二卷

後水尾院

古今類句 二十四卷 山本春一撰

百題拾葉

八卷

新和歌類句集

百卷

此書ハ古今集ノ後ノ新和歌類句集ノ百巻ニシテ...

古今和歌集の五句より五句までのものから
の句より五句までのものから引出するに便する編者
の意あり

夫木抄類句 三十卷
夫木抄のくくは春の句の例あり

草菴集類句 四卷
春の句の例あり

五句類葉集 三卷 松枝子春
二十一代集の家集大和物作保氏物作保氏
の字の例あり

類葉和歌集 六卷
お物なりびよふれ和歌の例あり

藏玉和歌集 一卷
草木の和名十二月の和名あり

吳竹集 十卷
和歌連の和歌の例あり

吳竹集小刻 二卷
和歌連の和歌の例あり

和歌連の和歌の例あり

中つた草

二卷

河瀬菅雄

いふはねきつと物初れりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき
いふはねきつと物初れりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき
いふはねきつと物初れりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき
いふはねきつと物初れりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき
いふはねきつと物初れりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき

菅中まづの草

一卷

菅雄のまづの草はなれりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき
いふはねきつと物初れりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき

和歌詞之抄 写本

十五卷

北村季吟

和歌のまづの草はなれりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき
いふはねきつと物初れりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき
いふはねきつと物初れりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき
いふはねきつと物初れりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき
いふはねきつと物初れりしをいふればはなれは
わかるとして今も序の位はすしき

才四巻より才五巻のりしるも、
かこたう他者つまじりしるす

和歌寄書

六巻

一名歌通人志しる人丸あんり時代とつくはかりし
かせおほおのくればけりれりしるすのりしるす
のせしり他者つまじりしるす

詠歌大本

五巻

廣澤の長春より内人風觀齋長雅へ付了りわたりし
のりしるすのりしるすのりしるすのりしるす
のりしるすのりしるすのりしるすのりしるす

題讀曲切紙

一卷

四季恋雜のれしるすせは八通の切紙
稀りしるすの切紙四通りしるすのりしるす

又此の用ゑ切紙五通りしるすのりしるす
のりしるすのりしるすのりしるすのりしるす
のりしるすのりしるすのりしるすのりしるす

皇統尊諱等讀曲切紙

写本 一卷

此書ハ神本と自らいふ親町沈りしるすのりしるす
のりしるすのりしるすのりしるすのりしるす
のりしるすのりしるすのりしるすのりしるす

姉小路式

写本 一卷

傳の字 和傳抄歌合 二曙之夕の歌 飛多子雅章以吉雪記り

集外歌伝 亦とのせり 才との巻ハ 伝子相傳有ニ矣 紙經冊書は 折多子經冊ハ

渚ノ玉 五卷

大み十子ハ月夜抄傳於兼佐

此書ハ 二體 之夕 四季 四隅 五行 五三 八景 十如是

鳴の羽搔 二卷

十二月花多 廿二代集巻以巻軸歌 九十九賀多 亦ねとのり

柏傳 一卷 野田忠肅

柏傳

もがしとめてが 考とのり 十餘種の柏

歌囊井蛙談 二卷 百卷言滿

歌囊井蛙談

歌袋の 大木おのり 杉の 割せ

歌林記識編

群書一覽 和書部五

古今和歌集の巻目... 巻之五... 巻之七... 四季志雜各巻と云々... 他巻の向はあけよと

和歌乗様抄

二卷

和歌八重垣

七卷

有賀長伯

古今和歌集の巻目... 巻之五... 巻之七... 四季志雜各巻と云々... 他巻の向はあけよと

和歌二葉草

七卷

同上

初学和歌式

七卷

同上

濱れ

二卷

同上

和歌分類

七卷

同上

天象 地儀より多敷草本よりきて近作けしむる事あり
何れも然れどもこれにあらざるものありしは補せしがよし
他者とりりしはとせり

歌林雜木抄

六卷

同上

四季志の題部とすらしてその題部を以てしむる事あり
其の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし
四季志の題部とすらしてその題部を以てしむる事あり
其の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし
四季志の題部とすらしてその題部を以てしむる事あり
其の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし

和歌麓の塵

三卷

同上

此書ハ四季志雜の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし
其の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし
四季志雜の題部とすらしてその題部を以てしむる事あり
其の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし

寛政十二年上本す

和歌道志

一卷

和歌道志は四季志雜の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし
其の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし
四季志雜の題部とすらしてその題部を以てしむる事あり
其の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし

増補和歌道志

九卷

河瀬菅雄

和歌道の道志は四季志雜の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし
其の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし
四季志雜の題部とすらしてその題部を以てしむる事あり
其の題部を以てしむる事ありしは補せしがよし

小竹并... 浦... 酔... 河津... 自序...
 酔の昔... 河津... 自序...
 酔の昔... 河津... 自序...

ては大概抄

一卷

ては... 古...
 海... 出... 草...
 寛永二年刻

和歌童謡抄

一卷

五音の図... 聖横の相通...
 五音の図... 聖横の相通...

か... 武陽の博士...
 一巻 本居宣長

言葉の玉の緒

七卷

同上

此書... 目録...
 此書... 目録...
 序... 宣長

玉... 此書... 宣長

和書部五

五十一

和歌虚詞考

三十一

そのたぐうからむかへて初学ニ至りしは其部文れ部
として文の部ハ近伸のうたへて道ノ記消息がくかの
かまふのたぐう向のあやふからむかへて其部文れ部
のたぐうからむかへて

ては個引個
二卷 梅井一室

世に流布するはは大概初春梅雨の初め
考つて書中実情を充ちてあるは

考つて書中実情を充ちてあるは
二卷 同上

蜘蛛のすづり
二卷 同上

蜘蛛のすづり
二卷 同上

かぶら

三卷 富士谷成章

この虚字は...
かぶら...
序と載す

あひいお

六卷 同上

この虚字は...
あひいお...
引く

和歌虚詞考

一卷二本 加藤景範

この虚詞は...
和歌虚詞考...
引く

和書一覽

五十一

和のづく万葉集の古今集乃字代り御補し一
かぶつと書ハ万葉集古今集とては概系拾遺と云ふ一
しつりハ二書ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
藤倉右大臣集ホの古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて

ふりかけみ

一卷 小澤サキ菴

和歌のふりかけみハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて

明題部類抄

七卷

和歌但題の書ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて

一首のれりてハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて

増補和歌明題部類

二卷 尾崎雅嘉

此書ハ原中明弘ハおれおれハあまのりハ
採りてハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて
古今集ハ古今集ハ今昔物語ハ又抄りて

二首歌之首題五首七首十首十二首十五首廿首三十首行
 八四十七首ホ次は五十首より百首之百六十首七百首千首
 小のりてをのり四季の古きよりくろけし用ゆへは組歌
 とるち收め奥の和漢朗詠歌は句歌の假名歌は假名歌は
 句歌六帖歌おはれしとるちをのり近體家和歌今宴の用
 ころり一巻首は庭田大徳言殿の所序細のす巻尾は雅志自
 伝をくく一寛政のふりとなす

續和歌明題部類

一卷 同上

明題部類よりや名所の組歌一首通ひより三とそ
 五首歌八景歌十首歌十二景歌より十首五十首百首
 歌よりをのり四季の古きよりくろけし用ゆへは組歌
 四季の古きよりくろけし用ゆへは組歌
 今せよれ名おれははらうく清きよきつてくろけし用ゆへは組歌
 どのり一巻首は庭田大徳言殿の所序細のす巻尾は雅志自

季の細ものく續明題部類より号するものも今
 携りて四季の古きよりくろけし用ゆへは組歌
 今せよれ名おれははらうく清きよきつてくろけし用ゆへは組歌
 どのり一巻首は庭田大徳言殿の所序細のす巻尾は雅志自

掌中明題集

一卷 同上

掌中類題集

一卷

他者詳なりす一書は組歌より行なり四季の古きよりくろけし用ゆへは組歌
 どのり一巻首は庭田大徳言殿の所序細のす巻尾は雅志自

組題集

一卷

部類名所考

一卷

此組歌集何人の撰か... 一首通歌... 七首十首二十首百首... 附刻の名不考を國に名不考あけ...

和歌題辭要解

一卷 伴蒿蹊

四季志雜の歌の解... 四季志雜の歌の解... 四季志雜の歌の解...

枕詞燭明抄

三卷 下河邊長流

此書作者の名知らず... 萬葉集時代... 枕詞燭明抄... 枕詞燭明抄...

冠辭考

十卷 賀茂真淵

其例ハ花河... 冠辭考... 冠辭考... 冠辭考...

冠辭考續貂

七卷 上田秋成

真淵の冠辭考... 冠辭考續貂... 冠辭考續貂... 冠辭考續貂...

詞草小苑

一卷 建涼山

此書も五音五十字抄りのくちきすくし〜〜〜知りて見
 たり〜〜〜れを〜〜〜此人の著る〜
 詞も大荒〜〜〜の〜〜〜い〜〜〜せ〜〜〜ら〜〜
 い〜〜〜ら〜〜〜

枕詞補註

二卷

尾崎雅嘉

此書原本二卷枕詞一巻〜〜西三条通達院実隆公の作な
 る〜〜其説ももの燭明抄〜大内〜
 系中古字子〜〜道達院殿の抄釋の〜
 是ごろれ〜〜ち〜
 けり〜〜満ち〜〜老〜〜あ〜
 たり〜〜止體家の用り〜
 たり〜〜花のよの由緒の〜
 たり〜〜は〜〜は〜
 のふか〜〜は〜〜

巻るよ自序ね俯す寛政十一年上本す

詩文類

懷風藻

一卷二本 淡海三船

白王分（白王分）……淡海の権輿（権輿）……抄者の名はあらず漢文の自序よ
 る淡海の約し平都の暨ふす九百二十篇勅して一卷とな
 ず作者六十四人具は姓名附題し并せし爵里と列して篇
 首に冠りしむし時大平勝宝二年辛卯十一月○作者八卷首
 よ大友皇子二首 河島皇子一首 大津皇子四首 かつれしは
 一してかろころろしハ文武天皇三首 紀朝臣古麻呂二首 釋辨（釋辨）三首
 年中の作 大伴旅人 下毛野朝臣 麻呂 詩子 等 けりて卷末は葛井
 連廣成の注ありし○目錄の註は要略以時代相次不尊卑等級し
 奥書より長久二年冬十一月文生惟宗廣言より又康和元年の
 比蓮華と院宝藏の印紙 找出すし……
 友皇子の首孫淡海序如りしき……
 弘文院林氏の辨りしき

刊本ハ大和四年山脇重顯の跋に云く○按ずるに古今和歌集の真字序
 は大津皇子の御初め詩賦所作よりいへば人才子風と慕ひ
 塵を継ぐに文を承ぐに日本の詩賦ハ大津の皇子の御初め
 といふのまゝ今此集作らるる大津皇子より先ハ大友皇子の御初
 何のせりされし皇初め詩賦ハ大友皇子と祖よりいへば
 文華秀麗集 写本 一卷

經國集 写本 六卷

後白河二十卷 良岑安世滋野貞主等の撰今存す
 殘缺の中六卷の目錄有る本
 卷第一 賦 大上天皇春江賦 滋野朝臣貞主重陽節神泉苑
 賦 秋河哀應製 五十七首

卷第十 詩九 樂府 大上天皇塞下曲 惟春道賦得深山
 寺 應太上天皇御製 五十九首

卷第十一 詩十 雜詠 平城天皇詠殿前梅 文章生後八
 位下藤原朝臣令緒早春途中 五十六首

卷第十二 詩十二 雜詠 大上天皇雜言九日菟菊花篇 伊永
 氏 五言冬日友人田家被酒 五十四首

卷第十四 詩十三 雜詠 野岑守五言奉詠 滋野貞主五言送
 和膳州浄長史丹治中得紫柳植左大將軍閑院之作 五十九首

卷第二十 策下 駿河介六位上紀朝臣真象の對策 文より大神
 直虫磨の對策 二十六首

○第一卷の奥書に曰く康永癸未之歲初秋上旬之候於西郊嶋若粗枝
 盤言之點書之誤尚以有疑此書蓮華玉院室藏之本也近古以來
 魚握獸之人金玉之聲久埋塵埃之底卷軸多々紛失取遺僅上

急狀 祭文 願文 其餘諸體よ及べり作者ハ菅三品 源英明 紀齊
 名 源順 前中書王 江以言 朝綱 村上天皇 橘在列 清原真
 友 慶保胤 後江相公 巨為時 都良香 善相公 澄相公 藤
 春海 菅淳茂 統理平 藤博文 橘直韓 江匡衡 紀淑信
 藤惟貞 江奉周 高五常 平兼盛 藤篤茂 藤倫寧 文屋如心
 源為憲 藤冬副 野相公 藤氏宗 藤原時平 都在中 野美材
 藤惟成 菅雅規 紀在昌 高積善 橘小通 田達音 菅輔昭
 高相如 源相規 藤雅材 紀淑望 紀貫之 戸部齊信 源道
 濟 藤行葛 僧寂照 其餘おんりり ○今此刊ハ保年中洛陽西
 河慶士松永昌易儲家の訓点ハ参考ハ攷難ク刊ハす寛永己
 巳仲冬羅山道春の序ハおんりりの活板の序ハ ○此書の撰者
 藤原明衡ハ勘解由次官兼出雲太守ハ南家乃儒者シ
 續本朝又粹 写本 十三卷 藤原季子綱
 明衡の本朝文粹以ねのよハあつたり式部大輔敦光の柿本人麻

呂贊并序も書書のせり ○東見記ハ續文粹ハ十四巻なり
 今十三巻ハ

朝野群載 写本

二十三巻 三善為康

自序より多集及故之體以為知新之部類成之十巻号曰朝野群
 載時永久三曆丙申之年善家一儒為康拙之云 ○此書中の文粹
 類すものも多し官府のあつたり又雑文の中ハ
 田地賣買券ののせり遊女の賦ののせり遊女の名類の
 あつたりよふもの他者の名類ののせり作者ハ明衡也
 中書王 源順 大江匡衡 明衡 江佐國 以言 匡房 源經信
 菅原輔正等ハ其の康ののの文ののの ○此書古き書目ハ
 ハ二十巻ハあり今の中ハ十八十九二十三二十四二十五二十九
 三十以上七巻闕り ○その撰者ハ善家の康ハ崇徳帝の保元
 五年八月四日卒す

都氏文集 写本

一卷

都良香の文集あり富士記に書中より○菅公の良香の文集あり

菅家文章

十二卷

菅公贈太政大臣道真の詩文集あり才七巻より才六巻までハ詩
才七巻より才十二巻までハ文あり奥書云云天承元年八月八日
進北野廟院寛文三年丁未六月洛陽後学慮菴福春洞跋又元禄
十三年水戸府中村顧言校訂菅家文章の跋云く我水戸山公
篤好乎古每以印本文草詠闕間多往有不可解者為遺憾久之
獲一善本於某所欲廣于世乃命聽制剛氏校訂登梓於是填
其闕云其詠之如其後草絶而僅有嚮搜京師鎌倉得後草
二部亦昇坊向以資校讎云々○按才七巻御室書目詩家の都菅
家文集二帖又菅家文章十二巻と云々菅家文集ハ銀勝朝權
の次載り云々是善師抄と云々

菅家後草

一卷

此後草ハ菅公太宰府に貶せられたる所の和歌日菅家御集其詩文日菅家
文章其在菅府所著詩文日菅家後集○註日御集一卷文章十
二巻後集二巻又別有菅家日記○扶桑略記日昌泰三年庚申
八月十五日右大臣菅原朝臣上表奏進家集二十八巻○菅原陳経
菅家御傳日昌泰二年八月十六日献上家集合廿八巻○註日
祖父清公菅原家集六巻親父是善菅相公集十巻道真菅家
文章十二巻○按才七巻菅家文集十三巻と云々菅家文集ハ
今刊中ハ黒川道祐のものと云々

三教指歸

三巻一本

釋空海

三教ハ釋氏孔子氏孔子氏指歸ハ一巻也○卷首ハ自序と云
云聖者聖人教網三種所謂釋李孔雖淺深有隔並皆聖說若入

一羅何垂忠孝之是曆十六年臘月之一日也

卷上 龜毛先生論 卷中 虛亡隱士論 卷下 假名之鬼論

○刊本再板と稱すとの元禄十年河州高安郡獅子吼山教興寺必
舊連體の跋あり○大師遺誡曰年甫二十一外舅朝散
大夫阿刀大足世典於教へ文翰極學ハ十八ハ大学ハ
直講味酒淨成ハ就毛詩左傳尚書於聽復左氏春秋於岡田
博士ハ向遂ハ才れらち博く経史於瞻ハ志ハ心専佛經ハ
在茲ハよゆ此論之巻を於作ハ近士ハ成ハ魚空ハ撰ハ
卷中及く泉州復庵山寺ハ於勤操ハ後ハ羅深ハ沙弥ハ
十戒と受七十二の威儀と學びハ名ハ於教海ハ河ハもハ後ハ加空ハ
と改ハひハ

二教指歸覺明註 七卷

江府愛皇沙門運敬ハ之教指歸註刪補ハの序ハ先ハ江野史部教
光及成字ハとハ注解ハと撰ハすハ之の二家ハ採輯ハと合

せし一部ハす

三教指歸註刪補 七卷 沙門運敬

萬治己亥二月運敬ハ自序ハ覺明ハ集ハめハ大成ハすハりハてハ
尚ハ詳悉ハとハすハ○此運敬ハのハ舊註ハを刪ハりハ
乃釋ハ補ハつハりハ○此註ハは舊抄ハを引
つハてハ此書成ハてハ聾瞽ハ指歸ハとハすハ蓋謙ハなりハ入唐ハのハ身ハ
へ去ハくハ學士ハ某ハしハ某ハ褒賞ハとハくハ二教指歸ハとハ改めハるハ
明徳ハはハ○真言ハはハ明暦丁酉年冬十月初七夜半ハ於武
城愛皇靜慮堂東軒ハ運敬ハ又武州藤邑ハ二學ハ教院住持隆敬ハの跋
ありハ寛文三年春刊行ハ

文鏡秘府論 六卷 釋空海

詩式文法ハ備ハりハてハ声韻ハのハ法ハをハ備ハへハりハてハ子
つハ自序ハは金剛峯寺禪念沙門遍照金剛撰ハりハてハるハ
卷一天 調四聲譜 卷二地 論體勢ハ寺

卷三 東 論對
 卷四 南 論文意
 卷五 西 論病
 卷六 北 論對屬
 性靈集 十卷 同上

弘法大師の詩文集なり大分の上足高雄の真濟うれ松編り山書
 每巻の首は通照發揮性靈集とありせり真濟の序は西山禪念
 沙門真濟撰集とありせり

第一詩 第二文 卷首は性靈集全筆抄抄第二印記とありせり
 第三詩 第四文 第五第六第七文
 第八文 卷首は統通照發揮性靈集補闕抄とありせり
 第九文 第十文并詩は載十論詩九相詩等此巻中

性靈集鈔 十七卷 沙門運敬
 本集の註あり又十二巻の鈔あり作者とつゞけり
 濟北集 二十卷 虎関禪師

東福寺虎関禪師の詩文集なり○紀年録に師諱ハ師鍊自虎関
 と號す姓ハ藤氏洛陽の人なり父者左金吾校尉母者源氏皆賢行
 けり女子ハ生師ハ其こけり○按ずるに虎関聚る韻略に
 ありてハハは二条院の嘉元四年なり又元亨釋書の巻末ハ大日
 本國平安城濟北大沙門虎関禪師撰とありせり

寂室録 二卷 沙門寂室
 江洲水原寺開山玄光寂室の集なり寂室ハ南禪寺佛燈の嗣法
 乃弟子なり南遊して元の中峯國師端元叟及古林澄清抄等
 の名衲に參扣せり元の中峯國師端元叟及古林澄清抄等
 たり天龍建仁の徵命撰辭一祐法松甘一たり名僧なり虎関
 推持けりハハは二條良基公より筆跡に賞す

梅花魚畫藏 四卷 漆桶萬里
 万里の詩集なり多く自註ありその中ハ光國の註もあり
 〇梅花魚畫藏ハ万里の別号なり

やぐらふ一集のらむひらまのり一乃至は陸奥
てとほしよふて之體は晴風おも回化なりとる○按十
醫書に梅花魚畫藏之巻は甲斐徳本の著しとるなり同名
以てい書よ混すなり

帳中香

二十一卷 五十本 同上

山谷詩集の抄し字どらば活板なり本集二十卷序一卷毎
巻の行は梅花魚畫藏漆桶萬里編とるなりとるなり
よあとの國柄のせしなり○前龍山江介周鏡の序に云紅左漆桶道人
萬里博涉群書尚友古人暇日把此集以三傳焉十翼焉仍名帳
中香曰昔龍樹觀華嚴而知其宗趣也吾亦觀此集而徹其奧
也後未學者觀之必領其旨也判然灼然陸放翁氏所謂五國
以香為佛事之者寔非虛發是以名焉云○鐵船の跋に梅花
魚畫藏萬里老人講獲黃西家之詩集於棘隱軒而作鈔日久
矣號曰天下白曰帳中香其鈔之至精也能決人之狐疑疑為

之龜鏡蓋取義於雪堂之雪香嚴之香乎云○又明應八年己未
五月萬里自跋に云○本書の巻尾に也徳元年萬里山谷校
訂なり

四河入海

百卷

東坡詩集の抄り建長寺の住笑雪子法座主に九何集の
活字なり○東見記に曰四河入海大岳の翰花遺芳江西の天馬
玉津沫瑞溪の脛説万里の天下白と四部合なり此外翰花殘
藁一とるなり万里の天下白は他はな何なりとるなり
は一賦とるなり雪降は是とるなり天下白とるなり
此東坡夢雪とるなり此は是とるなり此は是とるなり
白とるなり

翰林蒔蘆集

字本 一卷

此書を禪僧眞竹の詩集なり眞竹を明應のはり人なり

半陶稿

六卷

相國寺法住院の彦龍藏主周興の集なり彦龍ハ深草の陶工の子横川和尚の弟子なり一書林の英秀なり四六の文なりかくりく西蔵一書猶宜竹軒景徐の序なり其の序なり握高の曰彦藏雖為異教之徒又一代偉人余所甚愛重也一書

彭叔和尚錄寫本 一卷
南禅寺の前住東福寺の見住彭叔守仙の詩偈文章の集なり天文年中の作多し一聚ふ韻の跋北野天神の贊并序等なり天神の贊は序は渡唐天神の像のりなり

宗休和尚錄寫本 一卷
妙心寺宗休和尚の詩文集く多し永正天文の比の著述なり西贊追悼及び當時諸侯の香詣寺の作も多し一書
狂雲集 二卷
一休和尚の詩集なり和尚名ハ宗純別ニ狂雲子ト号すなり其の集の名トヤリ

本朝一人一首 十卷 五本

萬治の初院林氏の撰なり大友皇子派なりめく中古世諸名家三百餘人の作なり一書撰しめたり禅僧の詩一書羅山の作ハこれ撰しめたり作者の世系ハヤリ

本朝百人一詩 一卷

林道春の撰なり中納言の百人とあり一書撰しめたり別ニ百人一詩あり明暦元年命撰し直春春齋春徳これ撰し其書ハ漢魏六朝唐宋の名家百人の作と撰し定家の百人一書撰し一書辨疑書目録ニ曰予往幸古代の書寫本ニ本朝百人一詩の一本あり其詩ハ道春の編り板本ト曰いふハ其書目録ニ此百人一詩ハ御所方の屏風ニ有けり取集めりこれ編むし其作者ハ小補撰し書すなり其の作者ハ其書目録ニ識者の指南撰し候なり

本朝詩英

五卷 二本 野間三竹

上、天子より下、群臣より、多、清體、
氏、竹洞、友、元、ホ、の、序、あり、

惺窩文集

八卷 藤原肅

有、系、肅、字、歛、夫、惺窩、先生、の、詩、文集、なり、生、せ、ハ、定、家、郷、の、苗、裔、
一、く、下、冷、泉、の、紙、の、子、なり、播、州、細、川、に、生、じ、切、
二、吳、が、一、龍、野、の、吳、東、明、の、弟、子、と、なり、
後、洛、の、相、國、寺、に、住、し、
傳、識、の、名、稱、は、く、三十、歳、の、收、佛、教、と、
看、破、し、
一、く、風、濤、
一、く、鬼、界、島、
一、く、瀟、湘、
一、く、洛、北、市、原、村、に、隱、居、し、
肉、山、人、と、号、す、
〇、山、書、山、集、五、卷、ハ、門、人、林、道、春、に、れ、れ、編、一、後

集、三、卷、ハ、菅、玄、同、に、れ、れ、編、す、門、人、心、意、の、序、林、永、喜、の、跋、あり、
傳、集、の、末、に、門、人、哀、悼、の、詩、附、す、又、惺窩、和、歌、集、一、冊、附、刻、す、
長、嘯、道、春、等、の、贈、答、あり、

同

十卷

此、一、本、ハ、惺窩、先生、の、男、冷、泉、羽、林、為、景、朝、臣、の、編、集、す、
一、く、慶、安、四、年、後、光、明、帝、御、製、の、序、あり、
〇、按、す、
後、光、明、帝、程、朱、
の、学、に、志、す、
興、
妙、書、
惺窩、文集、
室、鳩、巢、の、逸、話、

羅山文集

百五十五卷 二本

林、道、春、の、詩、文集、なり、文集、七、十五、卷、詩、集、七、十五、卷、文集、目、
録、一、卷、詩、集、目、録、二、卷、附、録、二、卷、共、三、十、本、なり、男、春、齋、春

徳これに編集す。○幸島宗意の和板書籍考に曰羅山文集日本第一の大部の文集なり朝鮮の俞秋潭日本之文章以羅山為第一の詩文にしてハ調子もよく評議して古今獨歩のものと云ふ。○世よ詩文としてハ父の片言隻字も漏らすものあり。○凡例は文粹詩選後世博推者。○学士のあつたれを以て其心察すべきものあり。

梅洞集

四十卷 林春信

弘文院学士の嫡子春信の詩文集なり。自撰詩集十卷 文集十卷 續詩集二十卷 共々四十卷。○竹洞友元の序あり。○春信一名懸字ハ孟著梅洞と号し又勉亭と稱す。幼く神童奇材の譽あり。二十四歳に卒す。此集詩文も梅洞の自撰なり。續詩集ハ弟春常これと編集す。春常一名懸字ハ直民懸字と號す。

讀耕全集

二十卷 林春徳

羅山の次子讀耕齋春徳の詩文集なり。春徳一名ハ靖字ハ彦後。可んハ讀耕林子と稱す。

活所遺稿

十卷 那波道圓

那波道圓の詩文集なり。其長子祐生木菴守之に編集す。門人宍軒際恕の序あり。活所播州姫路の人なり。幼醫術ハ半井氏よりし。いハ毘沙門にて惺高の門に入。程朱の学ヲ聞。惺高の人の中より其名を以て。肥後侯に仕へ。老後ハ紀藩に仕へ。其の美未ニ行状と附す。其作者門人奥田松菴なり。

老圃堂詩集

三卷 那波木菴

道圓の嗣子木菴の詩集なり。木菴名ハ守之字ハ元成。父の業を継ぐ。紀藩に仕へ。

覆樽集

三卷 石川文山

石川文山の詩集なり。文山名ハ四六山人と号す。老後ハ巖山の麓。

一乘寺村の隠して詩仙堂に營む

覆将西集頭書

二卷 野間三竹

三竹字ハ子苞静軒号す松永昌三の内人三竹の詩友

覆将西全集

二十三卷 十四本

丈山の詩文集がうりつひハ新編覆将西集と号す 正集四卷詩四
百首初のす丈山自撰がうり松永昌三野間三竹の序らう 巻首二年
譜とのす人見友元作し 續集十卷丈山内人石川半助これと
偏す第一巻より第七巻まで詩七百餘首とのす詩の批評野間
三竹がうり 第八巻より第十巻まで 銘贊書牘等とのす巻首
二野間三竹の序らう 目錄と奉 附録三卷石克これに偏す
詩仙堂記三竹依の丈山墓誌銘同行状寺社のセうり弘文院学
士林子の總序正集れ巻首のセうり

草山集

三十卷 十五本 沙門元改

城州深草瑞光寺の住持元改の詩文集がうり 本集二十卷元改の
自撰がうり妙心寺大嶽の序らう 續集十卷ハ門徒の手い出り
建仁寺通憲長老作の行状と附す〇元改幼江州彦根城主井伊
氏に仕へ石井平之丞元改といつて二十六年出家し法華律に
持し瑞光寺に住し父母を孝らう石川丈山陳元賢はこれに
て文の四十六巻をくく亦寂す元改幼師寺の日豊といふ信
儀といひ文雅といひ寔に近世の名僧がうりといふ

谷口山詩集

六卷

此書ハ草山集二十卷中より諸體の詩のつねぬきあつての
がうり〇やう別よ元改のわうがあつてんくもわわを世と号す
一やうり又陳元賢に贈答をうりわわ集めくえり唱和集と号す
二やうりこれハ元改のうりわわ

史館茗話

一卷 林春信

此書漢文より皇朝の詩話文論とあつたをうり弘文院林氏

大正以後以て近時の人なりけり
 第三卷 元和以後京師の藝文類聚一類にして兼て他心を及ぼせり
 第四卷 東都の藝文より一類にして他心を及ぼせり
 第五卷 第三第四兩卷の諸餘より一類にして他心を及ぼせり
 ○此書より採摘する所の古人の詩は 懐風藻 經國集
 麗藻集 魚題詩集等なり ○明和庚寅仲冬 柚木太玄序 同
 辛卯之春 茅清絢跋 同 年上本す

醫書類

大同類聚方

百卷

大同二年右衛門佐安倍 真負侍 醫出雲廣貞等勅撰奉下て撰す
 全書八七〇ひく今存す 一巻なり ○卷首より五位下典藥
 頭安倍 朝臣真負 侍 從六位上 出雲宿禰廣貞奉勅 同撰す
 せり 其説 日官府い 一 神代の遺方之策り 今分て四方に
 支少考名命の言に任せり 十二方より又一方 則十三科具りり
 上古の用藥唯三十七品の名をの 今一珠 一類にして
 第一藥名部 二十九種 和名部 漢名部 下 附す 久良
 良 苦參 佐保比女 地黄 加太保 半夏のおき ○第一卷 法
 路藥 日向藥 大國藥 第二卷 長門藥 鏡藥 伊母藥
 第三卷 出雲藥 於乃古呂藥 第四卷 七藥 中藥 第五卷

和書部五

七十一

銀十枚と買取り性全まゝに頓醫鈔にりて官庫より頓の字の訓はもとよりいふも人のかりきりて本朝医考より梶原性全何の處の人と云ふはつりてせし會て鹿苑院義満公の仕へく医術に施しりて萬安方にりて頓醫方十卷に撰す

頓 醫方 鈔 寫本 五十卷 同上

卷首題号に下は性全集の二字ありて眞書曰為救倉卒之病聊抄藥方之要云病篇目之療養之旨趣頗近俗言廣尋古賢之訓兼加今案之詞是則欲令見者易論也而已于時嘉元第二曆南呂上旬天書之性全○又天文十八年己酉五月中旬十三日守憲の眞書ありて○按ずる此書田舎中及缺中寺カレの世に傳り今友人木世甫珍藏の古字に抄借刻しりて目錄に左よと云ふ其書惜りハ第十卷に闕○又按ずる黒川道祐の本朝医考に頓醫方十卷と云ふハ略なりて一といふは十卷

のこの抄るるをりて詳かしく候よし

兼葭堂所藏頓醫鈔目錄

- 卷第一 五臟六腑虛熱寒熱證治 卷第二 諸風 附 諸中風 七處灸
- 卷第三 五臟中風形 脚氣禁好物 秘藥 灸所 毒虫食集
- 卷第四 上 傷寒序言 卷第五 中 傷寒 傷風之秘完
- 卷第六 下 傷寒 傷寒灸所 暑氣 卷第七 積聚 癥瘕 疰瘕 赤白痢病
- 卷第八 積聚 下 疰瘕 諸臟病 下痢
- 卷第九 傳屍病 附 骨蒸 諸瘡 落葉 又傳屍病 一灸
- 卷第十 闕 卷第十一 諸氣 五膈
- 卷第十二 諸氣 下 延壽丹 過山丹 秘方
- 卷第十三 嘔吐 霍乱 婦人血塊 懷妊吐
- 卷第十四 五痔 并 水腫物 脹滿病 卷第十五 諸虛損 傳屍病 虛損 灸所
- 卷第十六 諸淋 遺尿 諸小便 并 灸所 卷第十七 喘息 咳嗽 痰飲
- 卷第十八 癩疾 狂病 卷第十九 眼鼻耳 又一切目病

卷第二十 齒口舌喉唇又齒喉重舌次下治方

卷第二十一 疝氣 偏類 卷第二十二 消渴 內消

卷第二十三 吐血 嘔血 唾血 大小便血 卷第二十四 癰疽 疔瘡 內瘡 諸膏藥方

又膏藥方 卷第二十五 中惡 卒死

卷第二十六 黃疸 卷第二十七 婦人月水以下病 長血 內藥

卷第二十八 婦人 中風 以下諸病 卷第二十九 婦人 一切難病

卷第三十 婦人 求子 以下諸事 懷妊之間 諸病 事

卷第三十一 婦人 懷妊之間 諸病 女人 汗血 吐血 尿血 下 女 乳汁 暫留 治方

卷第三十二 婦人 臨產 溺胎 產後之 諸病

卷第三十三 婦人 產後之 諸病 卷第三十四 癩病 之 秘傳

卷第三十五 小兒 變黃 諸風 驚癇 客忤 癩病 疔病 夜啼

卷第三十六 小兒 傷寒 溫病 解懸 卷第三十七 小兒 咳嗽 喘息 疹瘡 癩疹

卷第三十八 小兒 疳積 積聚 丹毒 頭瘡 白朮 蓮根

卷第三十九 小兒 雜病 胎瘡 赤草 白草 穴草 等

卷第四十 諸病 之 禁好 物

五種 物 目藥 痢病 藥 浮藥 卷第四十一 家脈 全要 病人 生死 十種 物

卷第四十二 撮要 調人 鍼灸 完 色 雜

卷第四十三 五臟 六腑 形 五藏 諸法 配樣 卷第四十四 五藏 六府 形 五藏 諸法 配樣

卷第四十五 二秘方 二交接 寺治 卷第四十六 醫師 要心

卷第四十七 諸藥 功能 卷第四十八 諸味 功能 清渴 秘藥

卷第四十九 秘傳 石草 藥 上下 品 事 諸藥 調 糸 之 事

捧心方 寫本 二卷

卷首の漢字の序も云我邦海生の業故以て厥世の惟和丹の両家の近世支横派道と争つていれ和家其傳の聞かたり丹家の一脉亦落く曉星の如く爰は梶原淨観より丹家の師承して其右の長より其我邦の秦越人乎萬安頃医の両方より萬安ハ秘しつてつて頃二医ハ今世の秘道と道全しりよ英特の士が我邦の群書に嫌く舶と附し

群書一覽 和書部五

七十四

南遊す其業すまじく大なり其觀改る全より四傳して人より長
 淳しり淳は淳屠氏なり海峽踏て以て世に婆娑する然し其才
 徳の薰ずるところ以て其真の如くなり一醫術の集成す
 いふもれれれ才徳よ倫しり蓋し此緒餘土直の我友中川公
 俊逸穎悟の質以て淳に依て學ぶ方論脈訣藥性鍼灸咀刺和
 の書つて聞て求め得て觀ぶものあり其衣丕承は
 て直より公近代医家者流學術内より膏肓聞外より過韓氏肥瘠病
 否の元知す一海世澤なること痛念し一惘然として方兩
 卷精選し一冊に捧こり一病を下かり病論は脈證
 有り載方よりありその功なりは取語はありす古方以て
 て私に以て一録に措す蓋し此書の作鼻祖淨觀公萬安方は標
 準なりと云く宝徳辛未仲秋日歌月史序○又同年初冬中川子自
 述の後序○又跋と云捧心方はなり中川子公の編すなり
 中川子先古道淳公の徒なり古道宏學強記以て中世の鳴一

世之偉人也與族兄竹翁價不相下鳳記○又文明壬辰夏季夏村菴
 靈彦の跋に曰名曰捧心者處已以謙耳余乃謂是西施之捧心也非東
 施之捧心也觀者念茲○此書も兼葭堂の所藏を借閱し録す

新增補遺捧心方 写本

十三卷 潤甫和尚

大文乃以南禅寺の潤甫和尚より中川子のいふを捧心方を諸
 書に比擬し薬の分量の異同増減等あり一且數百方撰補
 ひ收め十二卷し別は目錄一卷に附す○卷首は諸方綱目と
 題し一書に引用するの書目は
 和劑方 陳師文 斐宗元 宋崇寧中所著也當日本堀川院康
 和末長治始至今天文七戊戌年及四百三十餘年許其増注著之
 濟世方 嚴用和撰也則宝祐元年奏覽之當日本後深草
 院建長五年至今天文七年戊戌已得二百八十六年
 醫方大成 孫允賢元延祐三年丙辰取著也當本朝花園院心五

年后彦明附益之至今天文七戌戌年已得二百二十二年
袖珍方 明高祖洪武二十四乙亥年所著也當本朝後小松院應永二年至
今天文七戌戌年得百四十八年
得效方 危亦林元朝至元三年丁丑所編也當日本後醍醐天皇建武
四年至今天文七戌戌年已得二百二年
直指方 楊士儼元景定五年所編也當日本龜山院文永五戌辰年至
今天文七戌戌年二百七十四載
玉機微義 徐孝純劉宗厚明宣宗正統四己未年所著也當日本後花
園院永亨十一年至今天文七戌戌年已得百年
醫書大全 熊宗之明宣宗成化三丁亥年所著也當日本後土御門
院應仁元丁亥年至今天文七戌戌年已得七十二年
奇效良方 七人良醫明宣宗成化六年庚寅所撰也當日本後土御
門院文明二年至今天文七戌戌年已得六十九年 方賢 楊文翰
宗武 趙璣 許觀 貴珍

婦人良方 陳良甫嘉熙元丁酉所著也當日本四條院嘉禎二年至
今天文七戌戌年已得三百載 熊宗之補遺著之
錢氏小兒方 錢乙內人闕孝忠編集熊宗之類證明正統五年庚申也
當本朝後花園院永亨十二年至今天文七戌戌年已得九十九年
本方 丹家心傳中川公躬著也則後花園院室德三年未歲也至
今天文七戌戌年已得六十九載
右十餘方藥方功能分量加減異同具勘錄之
十三要方 徐用和明宣宗成化十六庚子年所撰也當本朝後土御門
院文明十二年至今天文七戌戌年得五十九年
嬰兒得效方 李景芳所著也明曠甫鈔梓己正統甲子本朝後
花園院文安元年也今至今天文七戌戌年得九十五年
卷一 四時之常脈 遍不及之脈 扁鵲不治 諸風 中寒 中暑
中濕 傷寒 卷十一 小兒諸證
卷十二 別集 五臟內外所因 六根秘方 諸毒 雜方 九蟲論 蒼耳

福田方

十二卷 沙門有林

卷之一 諸氣脾胃

卷之二 腹中諸病

卷之三 虛勞羸瘦

卷之四 風寒暑濕

卷之五 脚氣雜風

卷之六 傷寒瘡疾

卷之七 咳嗽吐血

卷之八 前後兩隕

卷之九 婦人小兒

卷之十 疔瘡腫

卷之十一 卒痰熟藥

卷之十二 脈臟灸要

○此書本文自序にも片假字を多用せり才十卷の奥に有林福田方卷之十右此一巻者天文四年未六月日長圓口筆と云々又他の卷に守憲書之と云々奥書にもあり○序に曰初諸氣より終雜病よりして万病都て盡す百病悉く了るなりと云々此方撰付て人極ふものハ八苦輪の救済に修了なり彼薬を用くと瘡と瘡すものハ福田の善苗を植ふなりおもつらう斯義又温て方名松述と云々花喬の尊卑博く試す時又和の編素同く福田撰家らんこと其書ふことあり 隠士沙門有林序○此書近來刊本世に未なり今嘉慶堂取藏の古本本に以てこれなり

袖中記秘方 写本

二卷

第一卷 中風より諸氣に至り 第二卷 諸虚より小児に至り

○跋に曰暇日の次為竹軒に袖中記を授けしに云々此方なり特に門前分ち類を纂めりるの精に擇ひ其相と辨くして一巻とすなり袖中記と云々愚案す此方は以て病を療せむことと云々驗に云々○梅本に本朝医考に曰和氣氏瑞策真長の子なり自通仙軒と号し又鹽菴と稱す心親町院勅に院の字に賜ひ通仙院と稱す僧綱と歴す云々以て素絹に着せり云々和氣氏に付し云々の医心方二十巻に似たり

単全日用奇妙集 写本 一卷

妙薬のれ百七十二方ありや古字なり 慈濟軒方書 写本 六卷

興福澄一禪師（号）醫方（方）方（方）諸病（病）門（門）論（論）これ（此）の（の）す（す）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）一（一）書（書）入（入）り（り）の（の）友（友）人（人）木（木）世（世）庸（庸）言（言）く（く）此（此）方（方）書（書）は（は）九（九）島（島）の（の）某（某）和（和）尚（尚）父（父）く（く）これ（此）を（を）欲（欲）す（す）の（の）り（り）は（は）市（市）中（中）に（に）購（購）ひ（ひ）り（り）て（て）賞（賞）他（他）を（を）夫（夫）か（か）り（り）

啓遊集

道三（道三）の（の）方（方）書（書）を（を）り（り）天（天）龍（龍）寺（寺）策（策）彦（彦）此（此）序（序）は（は）此（此）書（書）は（は）親（親）町（町）院（院）の（の）觀（觀）覽（覽）に（に）入（入）り（り）

切紙

四十（四十）門（門）の（の）り（り）醫（醫）士（士）初（初）学（学）の（の）り（り）あ（あ）る（る）化（化）ま（ま）り（り） 一卷 同上

宜禁本草

藥性（藥性）の（の）り（り）あ（あ）る（る）道（道）三（三）の（の）り（り）著（著）述（述）か（か）り（り） 二卷 同上

天心記

天心（天心）の（の）り（り）配（配）劑（劑）薄（薄）かり（り）診（診）視（視）せ（せ）る（る）の（の）り（り）姓（姓）名（名）何（何）れ（れ）し（し）と（と）も（も）あ（あ）る（る）か（か）り（り）存（存）す（す） 二卷 同上

續天正記

先（先）の（の）天（天）心（心）記（記）の（の）續（續）編（編）か（か）り（り） 一卷 同上

濟民記

病（病）門（門）の（の）り（り）あ（あ）る（る）藥（藥）方（方）附（附）す（す）俗（俗）人（人）の（の）り（り）あ（あ）る（る）か（か）り（り）存（存）す（す）の（の）り（り）道（道）三（三）の（の）り（り）著（著）述（述）か（か）り（り）存（存）す（す） 三卷 同上

醫法明鑑

病（病）門（門）の（の）り（り）あ（あ）る（る）方（方）論（論）は（は）此（此）書（書）刊（刊）本（本）ハ（ハ）医（医）方（方）明（明）鑑（鑑）に（に）作（作）る（る）今（今）之（之）朔（朔）自（自）筆（筆）の（の）り（り）あ（あ）る（る）本（本）は（は）就（就）く（く）これ（此）を（を）著（著）す（す）の（の）り（り）あ（あ）る（る）本（本）ハ（ハ）依（依）門（門）生（生）某（某）之（之）求（求）授（授）與（與）之（之）元（元）和（和）癸（癸）亥（亥）季（季）春（春）中（中）濟（濟）延（延）壽（壽）院（院）玄（玄）朔（朔）印（印）中（中）東（東）井（井）の（の）り（り）あ（あ）る（る） 四卷 延壽院玄朔

延壽撮要

養生（養生）の（の）り（り）あ（あ）る（る）要（要）語（語）は（は）此（此）書（書）後（後）陽（陽）成（成）院（院）の（の）り（り）あ（あ）る（る）か（か）り（り）存（存）す（す）の（の）り（り）あ（あ）る（る）か（か）り（り）存（存）す（す）一（一）漢（漢）の（の）り（り）あ（あ）る（る）か（か）り（り）存（存）す（す） 一卷 同上

一漢氏以古道三と稱す
食醫要編

一卷

僧元政

此書ハ深草の元政の作一々僧家食物の性味ありて

廣求經驗秘方

写本

一卷

向井玄升

眼目部 十六方

婦人部 三十方

口中部 卅二方

瘡瘍部 六十二方

小兒部 廿五方

心腹部 二十方

二便部 廿二方

損傷部 七方

癰疽部 五方

腋臭部 三方

四肢部 四方

毛髮部 四方

解毒部 三方

黃疸部 二方

耳鼻部 二方

五絶部 一方

雜病部 六方

頭痛部 附諸瘡 八方

痰喘部 附喉痺 五方

○卷首ハ先生金右衛門漢文の序あり享保六年歲在辛丑後七月下
野前長崎陽領住攝坂先生氏明鑿叙とあり○其葭葭堂藏本の
跋語曰右廣求經驗方ハ長崎山崎西金右衛門手筆本吾郷大森氏
所秘也因懇求假其真蹟摹寫以藏于家云己酉春三月浪速木

孔恭識

本朝醫考

三卷

黒川道祐

日本の名醫の傳ありて

上卷 大己貴命の始一細川勝元終とす

中卷 和氣丹波兩流の一人上池院竹田上田久志本 壽命院

寺の道統の一人鍼医外科目医等

下卷 國史の久えし醫藥の故實 丸散藥石の名 古代諸

進年の雜藥 本朝医書目錄 高麗牒状等の事

○寛文癸卯十二月弘文院學士向陽林子の序あり○此書ハ

本朝医書目錄

治瘡記

一卷

大村直福撰

攝養要訣

二十卷

物部廣泉撰

金蘭方

五十卷

菅原岑嗣撰

藥經

和氣廣世撰

和書部五

醫心方

三十卷

丹波康賴撰

集註大素經

三十卷

小野藏根撰

大同類聚方

百卷

安部真負撰

難經問答

一卷

出雲廣負撰

養生鈔

七卷

源輔仁撰

掌中方

一卷

同撰

倭名本草

同撰

萬安方

同撰

頌醫方

十卷

梶原性全撰

靈蘭集

同撰

細川勝元

愚按右端の書冊今も二三部存す嗚呼惜哉聊其名何

突キツ 艾サ 養生記 写本

本朝医考卷之上白建保二年二月四日源實朝卿病りて群臣こ

ろく奉て以て他日考案の便りなりとのこく

二卷

釋栄西

この患ふ時の兼上僧正釋栄西竊に前夜宿酒の餘醺の致すく

ろくかゝりて何聞てたらかり清茶一盞かゝりて

巻に献す實朝卿悦てこれに服して候と撰 末鑑

安驥集 写本

六十卷 二十一本

假字にてや、療馬の書にては、薬方本なり六十卷の

末に安驥集根元の御書あり馬師皇太子驥禁驥讀書安誦

と云ふ五人の御編なりと云ふ

圓鏡 写本

二十卷 一本

同療馬の書なり序の序の脈もろろ病生死

乃病ありて安驥集のさあまらすも不覚してこれを

察し平仲國子孫に於て此道智慧とすて字とおさめ

たらしむるべきなりと書記す此以て名流とす

梧桐 写本

十二卷 一本

これも療馬の書なり序の序の脈もろろ病生死

群書一覽

和書部五

八十二

平仲國之安驥集六十卷の内より所撰一々謝書を以て撰録す
その凡唐日本違分明一々道具と違ハ秋の月のなる覆
ひくす事と以てすす唯中の中柄を以て命ふある中守の相
以てすあり

教訓類

管家遺誡

写本

二卷

二十二條ハ中重復三四條あり仁君之要政者以撫民為本云々ト
リノ如ク又々管禘祀祭之法の如ク又神事神器の如ク入相貢税
之法臨期之朝儀樂之會式詩賦之興歌什詠今管神社修佛宮主
上着御之服乘輿之具外蕃下裔之宿客來朝市店朝夕之文買鷹鳥
犬田獵山海川澤之利害中私国侍女之教詳刑之按政武備之藝ハ
の如ク以上第一卷又放鷹獵獸の如ク僧侶の如ク揚名之官職の如ク
お祈奉巻末より凡震雷在朝家者左右之侍臣近席之侍女以火如之
香烟可供ニ主上之尊耳也公家以其多限亦可如此也以上遺誡畢
くくくく以上第二卷

實語教

一卷

淨福寺惠空の説曰此書いさゞ作者何つたゞくせせ世人のく

ていつく此書ハ弘法大師の作なりといふのゆゑに秘府論ニ教指歸
性靈集等并に記されし今此のハ其ののちたるは
を文意をかりとせしむるのよきも義理明なりとせしむるなり
を弘法の他よりとせしむるものありては按ずると下字集の
序より彼の實語童子之為教琵琶之為引長恨之為歌庭訓
雜筆之為往來也至若絲竹曰樂府詩歌為朗詠者卷影文繁
之此序ハ花園院の文安元年の作なりこれをまじ語教の世なりと
いふに可し南五歳母間氏日授百人一首和歌旬日能記又亦試讀
語教不日又記云々

童子教

一卷

釋安然

惠空の説つとくは惠僧都先年京都より山門の法印と達と法華
經の秘註を相傳せし時らかみよりいつく世々實語童子の二教あ
り誰人の作ずや法印のいつく童子教ハ五大院の安然和尚の製作と

りの故ハ和尚のいつくつに洛陽に居たりといふ童子教の
ありてなりといふは書作のいつくつにありては童子教の
なりといふは書作のいつくつにありては童子教の
の道理なりといふは書のいつくつにありては童子教の
心義即身成佛義私記なりといふは童子教の
なりといふは童子教のいつくつにありては童子教の
之の作者の傳ハ元亨釋書卷之四に曰釋安然ハ傳教大師の系族
なりといふは童子教のいつくつにありては童子教の
秘餘蘊カハ又花山の遍昭といふは童子教の
凡經論と涉獵ハ近家の馳騁するは述作するは童子教の
なりといふは童子教のいつくつにありては童子教の
徐君正等ハ編集せし經國大典の卷之六に一字字倭字伊路
波清自心書格先乞大童子教雜語本草議論通信鳩養物語

庭訓往来應永記雜筆富士云々〇貞徳慰草徒然草茅百二十
五段資スガ又納言ノミの道ミチのゆかりの條ジョウの條ジョウに云々入道もかみど
とておのほくぬかえたりと云々不問者フモンシャ不問者フモンシャのゆかりのゆかり
めがけなりとて一代の道同好むかりと云々今世までの恥チの恥チを
さけし此語コノコトの安然和尚の童子教コノコトを云々物別何のゆかりを
んじ我身のゆかりをいせずたりと云々のゆかりのゆかりのゆかり
とのゆかりをいせずなりと云々のゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
てんてんもいせずなりと云々のゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
今のゆかりのおんゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
乃ノゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
来芽六天の魔王の眷属クワンジュクのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
のゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
邦クニのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり

實語教童子教諺解 三卷 釋惠空

紀州淨福寺惠空和上十五歳の時化して流解リウケし京中片かなかりし
かりしゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
と云々〇寛文己酉孟冬招月亭孤峯漢字の序ヨリ云々実語童子
の二經ニキョウ舊来尚キョウライジョウ行ユクりゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
其書シ云々和五言ワゴ以てゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
云々紀州淨福寺覚賢惠空和上其先能州の人姓ハ木曾氏民
部卿某の裔イハレなり云々

和論語 十卷

卷首に漢文と此書の起オキり云々後鳥羽院の清宇教ゴクウ倉院
の別當清原良業勅諭チクレンが家イヘに云々神託シントク及び聖帝セイテイの金言キンゴン武の忠
言チンゴン貴女の至言シチゴン及びイハレ釋子シヤクシの芳言ホウゴンのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
記録キコクせり上皇ジョウ慶覽キョウケンの時此書ハ是中約の條ジョウに云々作せしゆかり
ゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
ゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり
ゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかりのゆかり

のかりの此次の代々撰者の次第とある

承久三年正月十八日 穀倉院清原良業 在判
 建長四年八月十五日 大外記清原朝臣頼尚 在判
 弘安十年三月廿一日 穀倉院別當清原良季 在判
 元徳三年九月十九日 穀倉院別當正四位下清原良枝 在判
 同御宇勘辨
 文和四年十一月廿二日 主水正清原朝臣良兼 在判
 應永二年三月十五日 大膳大夫大外記清原宗季 在判
 應永廿五年六月廿日 少納言大外記清原良賢 在判
 文安三年八月朔日 少納言大外記清原頼季 在判
 寛正六年十一月十九日 大外記清原宗業 在判
 長亨二年七月廿九日 大外記清原良宣 在判
 永正二年四月十三日 正三位行宮内卿清原宗賢 在判
 天文十三年五月二日 從四位伊豫介大外記持賢 在判

同御宇勘辨

少納言清原朝臣宣賢 在判

永祿十二年十一月廿二日 細川兵部大輔源藤孝 在判
 寛永五年八月十五日 從四位上右中將源重秀 在判

洛東山隱士長肅子 在判

かたがひ代々つづきつて、細川並齋豊臣勝
 俊のくくもつとて

- 第一卷 神部
 - 第二卷 人皇及親王部
 - 第三卷 公卿部上
 - 第四卷 同下
 - 第五卷 武家部上
 - 第六卷 同下
 - 第七卷 貴女部
 - 第八卷 釋子部上
 - 第九卷 同中
 - 第十卷 同下
- 卷末の長肅子、これの跋あり、寛文九年上木十
 三卷 十二本

十 誦抄

撰者つづきつて、かたがひ代々つづきつて、今何れか、はるかに、昔今のもの
 が、おぼたれ、つづきつて、かたがひ代々つづきつて、今何れか、はるかに、昔今のもの

法とていふは、此道はすめありきとすらば、これに
いふありき、此道はすめありきとすらば、これに
てんねつら、此道はすめありきとすらば、これに
て十訓お、此道はすめありきとすらば、これに
草のほり、此道はすめありきとすらば、これに
る念併のひ、此道はすめありきとすらば、これに
第一、人倫と侮らざる
第二、人倫と侮らざる
第三、人倫と侮らざる
第四、人倫と侮らざる
第五、人倫と侮らざる
第六、人倫と侮らざる
第七、人倫と侮らざる
第八、人倫と侮らざる
第九、人倫と侮らざる
第十、人倫と侮らざる
以上十訓ありき、見聞せしむ、此道はすめありきとすらば、これに
刊本ニキ、此道はすめありきとすらば、これに

人鏡論 三卷

此刊本、金持重宝記に依りて、此道はすめありきとすらば、これに
刊本の、此道はすめありきとすらば、これに
か、此道はすめありきとすらば、これに
く、此道はすめありきとすらば、これに
ゆ、此道はすめありきとすらば、これに
なり、此道はすめありきとすらば、これに

清水物語 二卷 坂上韋林菴

佛ありての老人、此道はすめありきとすらば、これに
佛ありての老人、此道はすめありきとすらば、これに
永十、此道はすめありきとすらば、これに
皇百八代、此道はすめありきとすらば、これに
一致、此道はすめありきとすらば、これに
部神道の三、此道はすめありきとすらば、これに

女四書目

女孝經

二卷 系中

七卷

辻原元甫

女論語

二卷 系中

漢の班固

妹曹大家が作し曹大家ハ曹

世淑妻

二卷 系中

明の太祖の皇后馬氏の作し

女誡

一卷 系中

曹大家の作し

内訓

二卷 系中

明の太祖の皇后馬氏の作し

此四部乃書が合せもの

一巻 系中

曹大家の作し

此四部乃書が合せもの

一巻 系中

曹大家の作し

此四部乃書が合せもの

一巻 系中

曹大家の作し

此四部乃書が合せもの

一巻 系中

曹大家の作し

此四部乃書が合せもの

一巻 系中

曹大家の作し

此四部乃書が合せもの

一巻 系中

曹大家の作し

此四部乃書が合せもの

一巻 系中

曹大家の作し

大和小學

二卷

同上

朱子の小字のりたるものなりけり一巻五本 山崎闇齋

大和小學

二卷

同上

朱子小字のりたるものなりけり一巻五本 山崎闇齋

婦人養草

五卷

梅陽散人

女子の深窓のやうなものをいふに依りて嫁娶の事家内にもち夫と

はうのよきやけ武夫と云ふものなりけり老のねふらふものなりけり

のいひはあつていふものなりけり此書は闇齋五十一歳の時江戸にありて加藤君

のいひはあつていふものなりけり此書は闇齋五十一歳の時江戸にありて加藤君

大和俗訓

- | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 第一 | 第二 | 為學 | 第三 | 第四 | 心術 | 第五 | 衣服 | 言語 |
| 第六 | 第七 | 躬行 | 第八 | 應接 | | | | |

○篤信自序より漢字があらざる人のおらざるのむきけ
 とくらねゆるに今此俗語を以て多あつむむ世中の夫婦の
 愚かきもあづるありめ兒女乃のけりて我妻ははるまじ
 ぶねもよる人こそ所さひぬぶのころ○筑前竹田定直漢
 字の序 宝永五年冬日篤信の自序は是の時より七十九
 かり同ふよとみす

- | | | |
|-----|----|----|
| 童子訓 | 五卷 | 同上 |
| 初學訓 | 五卷 | 同上 |
| 家道訓 | 六卷 | 同上 |
| 五常訓 | 五卷 | 同上 |
- これ所書りし俗耳なりやとてくちくちの

新編 深切著明かり

家訓十五條 唐金梅所

家訓十五條の序 毎條の序ありてはるまじりて
 人藤氏漢字の序 又宝永六年長至日京兆伊藤長胤漢字の序
 又宝永己丑冬北村可昌漢字の序 又宝永庚寅年三月桃溪道人
 若森漢字の序 又二輪希賢國字の序 又梅所國字の自序は
 ○希賢の序より唐金乃何の家法十五條ありてはるまじりて
 れる

日本室訓

一卷

天智嵯峨 村上 花園 後小松 後宇多 後柏原 天白王 かの聖
 語のあげ次日本忠訓の標 鎌足 武智麻呂 ありてはるまじりて
 親隆 継等より至るまで數十人のまこと言ひのせ又女子のあま言

女世子 範

女世子 範

二卷

大江資衡

學問大意 女官品階

讀書

歌人名數

和歌法式

賢女考

婦 女中學者

詩人 文人

歌人

書學

西事

香道

貝蓋

衣服

染色

布帛

器用

琴

双六

雜祭

七夕祭

の圖

明和五子刊行す

釋書類

日本靈異記 寫本

三卷

沙門景戒

此書雄略帝の時... 應よあがり... 帝の時の人... 異記 諾樂右京藥師寺沙門景戒録... 原夫内經外書傳於日本而興始代凡有二時皆自百濟國... 來之輕島豐明宮御寓與言田天皇代外書來之磯城島金刺... 宮御宇欽明天皇代内曲來也然乃學外之者... 之者輕於外曲思痴之類壞於冥報匪信罪福深智之侍觀於... 内外信惡因果... 於是諾樂藥師寺沙門景戒就瞰世人也... 好翻行刺利養貪財物... 物甚抗頭於粉粟粒... 或貪寺物生犢償或誅法僧現身

彼交或殉道積行而現得驗或深信修善以生靈祐祐善惡之報如影
隨形苦樂之響如應各音響起自嗚之不得忍寢居心思之
不能默然故師法佛圖說曰日本國現報善惡靈異記作上中下
三卷以流傳于世

上卷 合示善惡表 卅一條 中卷 合示善惡表緣 四十二條
下卷 合示善惡表緣 卅八條 此卷廿五條の半より下欄
○每條の末に字訓が附す 宇阿米之志多 興言保年 敬訓師の
かり ○本の奥書に曰建保貳年甲戌六月 日酉刻計書了
又延宝八年歲次庚申同八月奉我 相公之命登全剛寺奉借出金
剛三昧院所藏之本に之者 章考館識しりつ奥ちり

假名日本靈異記 三卷

漢字のなかの假字をよめていへるやう何人のおぼえをのぼるす
りては校するに前にならぬ 錯りては次第かゝりたるを
後よりいへるものなり

説法明眼論 一卷

平維章が和学辨に曰一樹の際にぬやう一河の流にむくもふ
く他生乃縁がうりていへるやういへるやういへるやういへるやう
演文もいへるやういへるやういへるやういへるやういへるやう
諺草もいへるやういへるやういへるやういへるやういへるやう
行ヤ時宗福寺より一程利く説法明眼論は又作りし
右の辞此書の中よせたり明眼論ハ聖徳太子乃作りし
書目よあるは八百餘年前に依採しりて作りし依採な
りし白拍子よりあはれゆかぬとこれやきりての生ふなりん

宝物集 七卷

平判官康頼鬼界島に流るる時途路に髪被袈裟名性照
映しりて彼をば所よりよきものなりて救免に達しりてな書
化まり ○才一巻に信承元年乃秋の比薩摩の公の多行あり
二年の春少しび舊里に帰るるは嵯峨の釋迦堂よりきて佛前にて

寺僧ト泰海トのくトれぬ倍トおトすトとトすトてトひトまトよト
 ぐトれト空トのトゆトみト海トにト佛トけトたト字トとトすトてトひトまトよト
 むトまトくトらトけトてト題ト名トにトあトせトりト全ト部トをトてト佛トのトゆトみト海トにトてト
 多くトくトくトれトてトひトまトよト今ト代ト刊ト本トとトすトてトひトまトよト
 素ト隱ト逸ト傳トのトすトふトのト康ト頼トのト小ト傳ト抄トのトすト其ト録トとトすトてトひトまトよト
 乎ト世ト者ト三ト策ト取ト予ト所ト閱ト者ト有ト七ト卷ト而ト講ト悉ト矣ト蓋ト刊ト行ト之ト本ト則ト
 後ト人ト之ト抄ト畧ト與ト○元ト禄ト癸ト酉ト年ト洛ト陽ト沙ト門ト明ト春ト序ト同ト年ト七ト月ト刊ト
 宝ト物ト集ト 略ト本ト 三ト卷ト
 元ト以ト隱ト逸ト傳トとトすトふトのト康ト頼トのト小ト傳ト抄トのトすト其ト録トとトすトてトひトまトよト
 とトすトてトひトまトよト今ト代ト刊ト本トとトすトてトひトまトよト

撰ト集ト抄ト 九ト卷ト 西ト行ト法ト師ト
 壽ト永ト年ト中ト西トのト撰ト抄ト善ト通ト寺トとトすトてトひトまトよト
 今ト代ト刊ト本トとトすトてトひトまトよト

四十餘ト年トのト撰ト抄トのトすト其ト録トとトすトてトひトまトよト
 今ト代ト刊ト本トとトすトてトひトまトよト

撰ト集ト抄ト 光ト悦ト本ト 三ト卷ト
 十ト卷ト 魚ト住ト法ト師ト
 卷ト下トのト撰ト抄トのトすト其ト録トとトすトてトひトまトよト
 今ト代ト刊ト本トとトすトてトひトまトよト

名にたるぬ人のためよふかしく誦かきしらす身らの
きかむのやうなやうなやうなをいかにしらすればいかに
りかきしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
ほの感情いかにしらするやうなやうなをいかにしらすれば
いかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
おのちいかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
のびにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
らねにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
かきしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに

三部假名抄諺注 七卷 報恩寺湛澄

假の意にしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに

三部假名抄言釋 二卷 加茂真淵

要解諺注おのちいかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに

ア○洛陽清淨學院現住故阿安水二年八月の序云々向阿上人三部抄先
は貞享の向報恩澄公諺注要解一書採撰しく此抄採解するの
文抄引義を述べていかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
ついでにいかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
の敬阿の舊文に引いていかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
とのおのちいかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
やうなやうなをいかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
やうの言釋の中要解諺注等は依りていかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
今りの舊事紀の伏書が引いていかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
の人の古事記日本紀何れにせよいかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
この言釋に依りていかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
丸秘おのちいかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
いかにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに
やうにしらするやうなやうなをいかにしらすればいかに

加書部五

多武峰縁起の註し漢字は以てこれなり今全文は四十二巻あり
○總論云々談峰縁起二本あり古縁起は後鳥羽院の御宇建久年中
談峰乃僧上法院永海文以撰す其後は花園院の御宇文明年中一條
禅師兼良深筆土佐光信圖す一説光茂圖す新縁起ハ文章向の如し
筆者ハ寛文中後水尾院の勅因て藤氏の堂上四十二人の名
畫も亦勅後ひて住吉如慶回愚慶圖す○古縁起本二巻なり
元禄十三年庚辰寺登其命に依り粟田口に竹く古縁起の修補あり
又二巻竹筒に四軸あり第一巻古藤氏始祖より第二章散魚所
圖に至るまで竹第一軸あり第七章蝦夷大臣より第十八章賊悉
散すまで竹第二軸あり第十九章翌日巳酉より第二十八章賜
藤原朝臣に至るまで竹第三軸あり第二十九章同十六日より巻末
に至るまで竹第四軸あり修補既り成近衛園白基退公の執奏
に依り觀覽は備ふ蓋天心の例に因り外題ハ近衛右府家退公

叡岳要記

記 写本 二卷

此書古字なり一々叡山開基の事蹟なり

上卷 傳教大師官符木のり 十六院のり 延曆寺縁起寺
号宣旨 唐土天台山 文殊堂 經藏 神宮寺あのみ
下卷 釋迦堂 西塔院 慈惠大師 智證大師 弘法大
師 義真和尚あのみ

談峰縁起便蒙

二卷

沙門光榮

淡筆○上法院水滸八建久年中の人から寺跡行業知りし談峰
縁起談山略記聖靈講私記等知りし予ら○此書刊本宝永七
年九月沙門湛堂序享保五年臘月沙門光栄跋し

哲言願寺縁起

二卷

奥書より以上八當寺建立以下佛の相好梁上の額小御堂の由縁亦
要知りし記しものかり寛政四年壬子秋八月惠明謹識○書
圖八法橋東洲に於て製す○書中長興宿祿記興元菴の半陶藁
事引也○此書寛政五年四月哲言願寺藏板す

法華譯和集

五卷

實海法師

法華經二十八品の意をあらわしむる代に於て撰集しう撰ひあ
るるらんがれり釋せり自序あり○按ぶると此書より譯和
集と号し數十卷ありしなり○經文に於ての字も如
らつるらんがれり書中と號すは華經の意をあらわしむる法華
譯和集と号すり彼全書星野山實海の撰し○友人江田世恭

か國すふの扶桑拾葉集異本卷身二十三は譯和倭歌集序実
海法師と載らるるらんがれり

略法華經和歌

四卷 二本

權律師日朝

法華經要文の古歌ありしなり○併しこれより卷末は
當時の竹園及び官家よりたりし要文八首のしり所附す貞
享五年四月十五日豊長とあり

說法用歌集諺注

十卷 五本

第一卷より第五卷まで 釋教無常哀傷のしり所ありしなり

第六卷 上宮太子の御歌より以八和尚の歌に至るまで法燈
如乘て其名せしむるなりしなり

第七卷より第九卷に至るまで 法華經のよせしむるなりしなり

第十卷 諸經のしり追加 袋草子 癡心集より餘ありしなり

のしり所あり

栗津義圭校訂 寛政四年刊行 古守宗意

釋教玉林和歌集 四卷 一本 先啓

每卷のくめは浄土真宗玉林和歌集と題す代に撰集及び代記の中より宗門の意を以て歌を撰選しと有り寛政九年九月洛陽浄林坊釋辨惠漢字の序に同十年の春刊行す。此書の撰者先啓信濃國の人なり。序中云々

管絃類

梁塵愚案鈔

二卷 一條兼良公
上卷 神樂 庭燎 阿知女作法 採物歌 大前張 小前張
下卷 催馬樂 律呂

奥に袖中抄松引く催馬樂の譜一條左大臣の時とあり律呂の歌はさしめられしものなり。此書の本名神樂催馬樂注秘鈔と号す。この書は伊馬赤入書に成恩寺友の撰とあり。ゆづり名を按抄と号せしなり。今其外に元禄二年の抄あり。御室書籍目録に梁塵秘抄二十卷後白河院勅撰とあり。彼兼好法師の時とあり。其書は伊馬赤の撰とあり。徒然草に梁塵秘抄の歌曲のこゝろとあり。其書は伊馬赤の撰とあり。彼書も彼書今の世に傳りしなり。其書目録に伊馬赤の撰とあり。梁塵秘抄は神樂催馬樂東遊歌詠曲等あり。くろくあり。

如成思寺殿其書中より神樂催馬樂歌抄より注釈河がら
 梁塵思案抄より抄させたるらんらなり
 神樂催馬樂歌 写本 一卷

此書は梁塵思案抄乃ち支と大回小方なるものし
 此書は梁塵思案抄乃ち支と大回小方なるものし
 手時文明十年これづも
 押

催馬樂章曲 写本

一卷

大嘗會田歌 写本 一卷
 歌の體長短さまざま其中八言九言の句なり
 外題者聖護院道影親王之御筆跡也右河秘

當道官宴曲集 写本

五卷

- 卷第一 四季部 春二首 夏一首 秋二首 冬一首
- 卷第二 賀部 舟神社 七首 卷第三 恋部 九首
- 卷第四 雜部上 付無常 十二首
- 卷第五 雜部下 付教敷 十二首 以上の曲の作者とま
- 官女曲 鈔 写本 三卷

卷之上 十首 卷之中 十一首 卷之下 九首

拾葉集 写本

宴曲集等乃たふあつたし、邦曲し

卷之上 十首 卷之下 十首

拾葉鈔 写本 一卷

上ノ向一 邦曲十一首何のナ

邦曲撰要 写本 十八卷 沙弥明空

首卷ハ目錄の卷ナリ其卷ニ夫當道の邦曲ハ初皇の口ナリシハ
人の耳ニ入ルニキクナクハナシキニシテモ思老ノ様アツ
曲ナリ其軸ナキニナリシハナリシハナリシハナリシハナリシハ
十餘首ハ愚作の外ナリナレタラシメ作者の名字ナリナリ
ナリナリナリハ貴命ナリナリナリナリナリナリナリナリ
ナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ
ナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ

けりおほほりてはのうらむらびんげんべりまよりてあづけり今
録ナリナリ撰要目錄の卷ナリナリナリナリナリナリナリナリ
ナリナリナリ

宴曲集 五卷 目錄ナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ

宴曲鈔 三卷 上ノ向一

真曲抄 一卷 邦曲七首付新作ニ首

究百集 一卷 邦曲十首

正安三年八月上旬之頃録之畢 沙弥明空 在伏見院中

○右の曲の中 花右三品作明空調曲 郭公 漸空上人作明空調曲 龍田河恋
冷泉武衛作明空調曲 源氏恋 或女房作明空調曲 今ハ此等
者の名知れずナリ○可次拾葉集目錄のナリナリナリナリナリ
のナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ
ナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ
ナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ

上巻の目録
 嘉元四年三月下旬之頃重加注之畢 沙弥明空 住三条院
 拾葉抄 一卷 調卷 後日出來之間追加之 十一首
 別紙追加曲 卷 邦曲十首
 玉林苑 二卷

上巻 邦曲 十首
 下巻 自 邦律講式 随出來加之 仍次第不同
 九首
 文保三年二月之頃記之了 後醍醐天皇御宇
 亨徳三層孟夏中旬書之 三善常房
 右三帖者以散尾彦六左衛門尉三善常房朝臣自筆本合書写即
 時校合訖 貞享元年申子仲秋天 前泉州司馬時元
 仁知日要録 写本 十二卷 藤原師長
 筆曲の書かゝる卷首より太政大臣從一位藤原朝臣師長撰とあり
 首卷 筆案譜法 結名 右手 左手
 卷第一 調子品 壹越調 沙陀調 平調 大食調等
 卷第二 催馬樂律 高砂 夏引 貫川 東屋 走井等
 卷第三 催馬樂下 安名尊 新年 梅枝 櫻人等
 卷第四 壹越調曲上 皇帝破陣樂 春宮囀 玉樹後庭花等
 卷第五 壹越調曲下 胡飲酒 河曲子 北庭樂等

和書部五
 和書部五

卷第六 平調曲 三基盤 白玉簾 萬歲樂等

卷第七 大食調曲 散手破陣樂 武昌樂 赤球樂等

卷第八 雙調曲 春庭樂 柳花苑 黃鐘調曲 小調曲等

卷第九 盤涉調曲 蘓合香 萬秋樂 秋風樂等

卷第十 同下

卷第十一 高麗曲上 新鳥獲 古鳥獲等

卷第十二 角調柱次第 箏卷法口傳事等

○此書第一卷より第十二卷まで八曲調の譜本... 藤原師長公安元三年三月五日任元内大臣... 張國出家... 所著有三五要録三五要略仁智要録仁智要略

五

管絃乃... 五重八毛皮肉骨髓の五

五重序 写本 一卷

鳴鳳集 写本 一卷

作者代... 大唐樂圖 叙名白虎通 説文 潘岳笙簧... 旬從五位下右近衛將曹大奉廣富書子畢

和琴 赤琴箏等の調 撥合名 東遊 踏歌名 催馬樂 樂器

名物 吹笙次第 始習笙事 付物事 十種供養伽陀事

朗詠事 御遊事 秘事 調子音取事のり所あり

體

源鈔 写本 二十卷 豊原統秋

豊原の姓... 體源一名づけ... 統秋判... 院實隆公の高弟なり風流のよのよと隠者なり雪玉集... 統秋身... の十首あり

先けきりよきぬおもはけのつたしむのころなり
○昔傳松葉、曰人皇七十代の天子松坂川院に於て少のころぬけ
所父なり此帝諸道の所勤サヒれ所のくく珠ノ管絃乃所した
るいけしす夫樂道の器其品莫大なり古來の樂書其圖何
らとて此又その由來なりいび其故何明せり就中近來樂道の
達者豊原朝臣統秋といひもの亂世すなれりすも及故何
免く樂器の來歴何明して一家に傳ゆる是故體源抄と名け
其書よきいふくありき○按ずる紫屋軒宗長記は統秋贈答の
書翰より又統秋朝臣似傳り和歌十首法華經の題号は以く向の
首に置る代中のやうなり

俗人の中よりなりわくもこのころぬけすなり

胡琴教録 写本 二卷

琵琶の書かゝりしれとありき
卷之上 教学琵琶 取扱 差榘 換音 諸調子品

十二律調 樂曲 催馬樂 師傳相承等十五條
卷之下 琵琶彈時用意 晴所作 樂屋琵琶 彈玄上用意
琵琶宝物 琵琶名所等二十四條
○每卷目錄あり每條裏書に奥より了り考道云あり○奥書
いよく以左近大夫將監中原光氏之秘本今書字之秘書之間世に涼
之人有其憚仍以女性令書之間傳字等多得其意追可書改
之 左近少將草名
樂譜要録 写本 十五卷
卷之一より卷之七まで 横笛譜 卷之八より卷之十まで 鳳笙譜
卷之上より卷之十三まで 篳篥譜 卷之十四 箏譜 卷之十五 琵琶譜
○卷末より後四位下遠江守秦宿禰昌名撰とあり○奥書より子保九
甲辰年春二月淨了 同十己巳年夏六月批校畢 又右に管二
絃譜依家之傳本選之内有疑者疑曲暫闕之以三方集會議定
之上可追加者也

詳書一覽 和書部五

箱印

琴曲抄

二卷

此書ハ八橋流築紫箏十三組外ノ新曲二組ト補ハ一流ノヨリツク
唱歌の註釋然クモツクモノノ巻首ヨリ終ハリ一筆ハ檢校修善の
らハナ元禄シマ二月作者の自序ニ依リ一筆ハ檢校修善の
とクハリクモツク

上卷 菜菔 梅枝 心づくし 天下太平 薄雪 雪の何し
雪の何し 以上七組何表組より

下卷 薄衣 桐壺 須磨 四季曲 扇曲 雲井曲 梅娘 羽衣
以上十五組 元禄七年九月の奥書ヨリ

換箏雅譜集

三卷

安村檢校改訂のヨリハ一裏表中許等の次第決定メ
上卷 表組 ふさ 梅がえ 心づくし 天下太平 梅がえ 雪の何し
六段の油
中卷 裏組 雲井 扇 雪井 四季曲 八段の油

乱輪舌

中許

ら 九段の油 七段の油 五段の油

下卷

三曲 四季曲 扇の曲 雲井曲 新組 羽衣 若葉 思

川

橋姫 新雲井弄齋 飛燕曲 宝曆四年刻

琴組唱歌集

一卷

安永年中ハ橋流の佳川檢校ハ組歌補ハナリテ曲ハ
表裏中許奥許の次第ハ
裏組 雲井 扇 雪井 四季曲 扇の曲 雲井曲 新組 羽衣 若葉 思

中許 須磨 梅がえ 心づくし 天下太平 梅がえ 雪の何し
雪の何し 以上七組何表組より

下卷 薄衣 桐壺 須磨 四季曲 扇曲 雲井曲 梅娘 羽衣
以上十五組 元禄七年九月の奥書ヨリ

上卷 菜菔 梅枝 心づくし 天下太平 薄雪 雪の何し
雪の何し 以上七組何表組より

下卷 薄衣 桐壺 須磨 四季曲 扇曲 雲井曲 梅娘 羽衣
以上十五組 元禄七年九月の奥書ヨリ

飛梅 安永六年六月刻 六卷 山田松黒

此書ハ箏曲の表裏中心ノ二曲等ハセテ一部の曲のヨリハ
〜〜〜と云テ萬のなすで其譜ハ〜〜〜ナク〜〜〜人ガ
大ニ〜〜〜

卷之一 表 落 梅之枝ハ〜〜〜天下太平 爲方 雪晨 六段
卷之二 裏 雪上 爲衣 桐つばハ八段 乱
卷之三 中許 浪磨 明石 末乃松 空蟬 雲井 弁齋 九段 七段
卷之四 奥組 四季 扇 雲井 五段 鷺羽衣 若葉 思川
卷之五 之橋檢校新曲 四季富士曲 二長曲 雪月花曲 玉川
玉川ハ〜〜浮舟 四季恋曲
卷之六 奥の書 箏 琴 瑟 阮 和琴等の和漢の證文 與匠の
シホウ 左右手法のシホウ 十二調 五調子のシホウ 箏製作のシホウ 柱爪寸
法のシホウ 秋霧形 松清形 箏寸法の圖 琴臺箏袋の圖

四季源氏乙乃曲のヨリ 同唱歌 安永六年山田松黒自序 同ハ大澤
山人漢文の跋アリ

謡抄 二十卷

百番の謡のヨリハ作者ハ〜〜〜古抄ハ〜〜ハ舊抄ハ稱す
高砂朝長 井筒鞍馬天狗 百萬鐵輪 兼平芭蕉 道成寺 龍田 爲服
女郎花 松風 安宅 昭君 志賀 大原幸 関寺小町 天鼓 誓願寺
頂羽 花笠 浮舟 春日籠神 遊行柳 蟻通 東岸居士 富士大鼓
野宮 葵上 白樂天 木曾 熊谷通小町 安達原 道明寺 杜若揚貴姫
紅葉狩 善知鳥 難波 清経 檜垣小梅 鷺飼 松虫 三井寺
鸚鵡小町 率都婆小町 當麻 玉井 頼政 千手重衡 阿漕 自然居士
羽衣 實盛 小督 善界 班女 矢卓鴨 短冊忠度 夕顔 俊寛 雲林院
葛城 藤戸 江口 西行櫻 柏崎 老松 通盛 軒端梅 景清 櫻川
三輪 船橋 采女 姨桑 槿 鷺鷥羽 盛久 定家 禰 二人静
蛭虫 籠大鼓 佛原 錦木 融 養老 八鳥 源氏供養 山婆

自今言西(九月)刊行

能花傳書

八卷

卷首、風姿花傳と云せり、應永七年卯月、後五位下左衛門大夫
觀世季元清、序、云、猿樂、人祕人のたつ、この、これ、
ゆ、の、阿、い、の、佛、在、野、
ま、か、い、し、し、ら、う、の、万、人、の、も、と、あ、る、す、ま、ら、う、の、推、古、大、白、王、の、御、代、よ、
秦、の、川、傍、に、あ、り、せ、り、あ、ら、う、の、天、下、安、せ、の、た、め、ら、う、の、諸、人、け、ら、の、
た、め、ら、う、の、番、の、甲、と、ん、と、か、ら、猿、樂、と、云、せ、り、あ、ら、う、の、世、の、
風、月、の、態、は、い、ろ、く、あ、ら、う、の、か、ら、い、ろ、く、其、な、の、川、傍、の、
深、く、に、あ、ら、う、の、春、日、日、吉、の、注、職、と、云、せ、り、あ、ら、う、の、近、江、の、
か、ら、雨、社、の、跡、の、ま、ま、と、云、せ、り、今、ま、ら、う、の、お、の、の、
あ、ら、う、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、
か、れ、た、ら、う、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、
の、り、あ、ら、う、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、

れ、と、云、せ、り、但、歌、の、た、の、風、月、え、ん、わ、ん、の、ま、ら、う、の、お、の、の、
と、云、せ、り、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、
た、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、
か、ら、あ、ら、う、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、
樂、の、秘、書、と、云、せ、り、花、傳、お、の、の、お、の、の、お、の、の、
り、あ、ら、う、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、
う、け、ら、う、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、
い、ろ、く、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、
せ、り、あ、ら、う、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、
世、小、次、郎、が、作、ら、う、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、
と、云、せ、り、其、書、の、奥、書、と、云、せ、り、右、註、本、作、者、事、依、安、藤、典、厩、御、所、望、調、進、之、
觀、世、弥、次、郎、長、俊、連、直、談、時、物、語、申、趣、所、注、置、如、斯、又、此、上、猶、可、殺、
聞、召、合、者、也、于、時、大、永、四、年、甲、申、孟、夏、上、癸、吉、田、藏、人、兼、將、在、判、
此、奥、書、は、以、く、お、の、の、お、の、の、お、の、の、お、の、の、

前の小次郎の他の遊の柳のももけきまま入りままききののけけすす彼
 下下向向けけままのの臆おそ断た々々々々々々々々強強くく休やすままししままささんんののままつつりり○
 此此花花傳傳書書植植字字ハハ一一本本ありあり表表紙紙のの模模様様カカハハ嵯嵯峨峨本本ノノ類類セセリ

